

Canon

キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社 カメラ販売事業部

〒108 東京都港区三田3-12-15 (東急三田ビル8F)

カメラ相談室 (製品取り扱い方法ご相談窓口)

東京 〒108 東京都港区三田3-12-15 (東急三田ビル8F)

☎(03) 3455-9353

サービスセンター (修理サービスご相談窓口)

札幌 〒060 札幌市北区北七条西1-1-2 (SE山京ビル1F)

☎(011) 728-0665

仙台 〒980 仙台市青葉区国分町3-6-1 (仙台パークビル1F)

☎(022) 217-3210

新潟 〒950 新潟市紫竹山1-10-26

☎(025) 246-8765

大宮 〒331 大宮市桜木町4-247 (OSビル1F)

☎(048) 649-1450

千葉 〒260 千葉市中央区末広2-13-2

☎(043) 268-5261

銀座 〒104 東京都中央区銀座5-9-9

☎(03) 3573-7834

新宿 〒163-02 東京都新宿区西新宿2-6-1 (住友三角ビル地下1F)

☎(03) 3348-4725

横浜 〒220 横浜市西区北幸2-6-26 (HI横浜ビル2F)

☎(045) 312-0211

静岡 〒420 静岡市常磐町2-6-8 (トーカイビル3F)

☎(054) 253-9010

名古屋 〒461 名古屋市東区東桜2-2-1 (高岳パークビル1F)

☎(052) 939-1830

金沢 〒920 金沢市本町1-5-2 (リファール1F)

☎(076) 233-6608

京都 〒604 京都市中京区烏丸通二条下ル秋野々町513 (京都第一生命泉屋ビル2F)

☎(075) 255-5953

梅田 〒530 大阪市北区中崎西2-4-12 (梅田センタービル別館)

☎(06) 373-8181

神戸 〒651 神戸市中央区雲井通り4-2-2 (神戸いすゞリクルートビル8F)

☎(078) 291-0535

岡山 〒700 岡山市柳町2-6-25 (朝日生命岡山柳町ビル3F)

☎(086) 221-8678

広島 〒730 広島市中区大手町3-7-5 (広島パークビル1F)

☎(082) 240-6711

高松 〒760 高松市紺屋町4-10 (鹿島紺屋町ビル1F)

☎(0878) 23-4681

福岡 〒812 福岡市博多区美野島1-2-1 (キヤノン販売福岡ビル1F)

☎(092) 411-4173

沖縄 〒900 那覇市松山1-1-19 (安田生命那覇ビル8F)

☎(098) 866-7933

カメラ技術センター (修理サービスご相談窓口)

東京 〒140 東京都品川区東品川1-2-5 (東信天王洲ビル5F)

☎(03) 3450-2731

大阪 〒540 大阪市中央区森ノ宮中央2-5-3

☎(06) 941-1076

営業所

大分 〒870 大分市城崎町1-3-31 (富士火災大分ビル)

☎(0975) 37-4117

休業のご案内

新宿 (日曜日、祝日、第3木曜日、) その他 (土・日曜日、祝日)

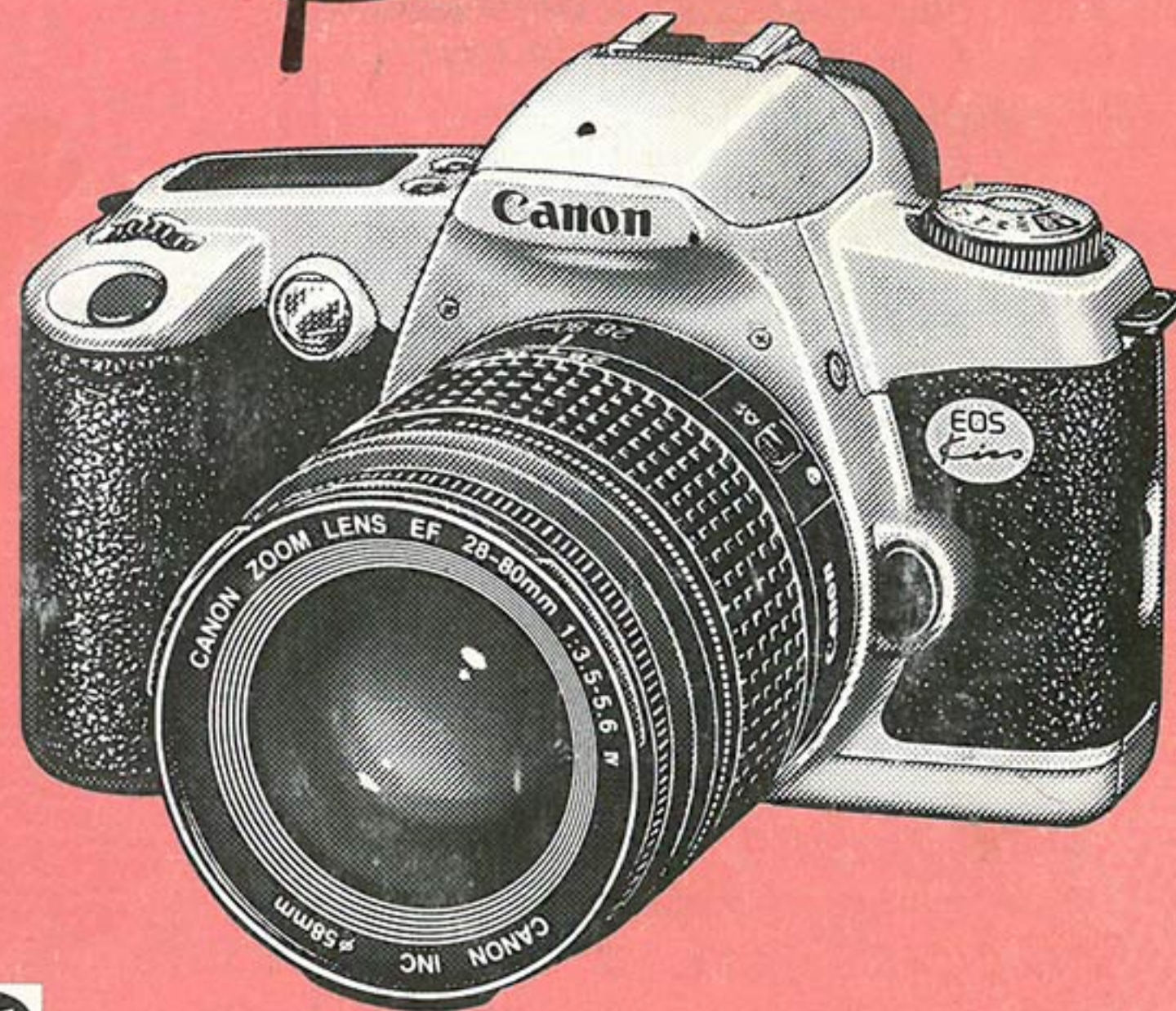
営業時間のご案内

新宿: 10:00~18:00 梅田: 9:30~18:00 その他: 9:00~17:30

この使用説明書は1996年8月に作成したものです。
それ以降に発売されたシステムアクセサリーとの組みあわせにつきましては、上記の弊社カメラ相談センターあるいは最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。

Canon

NEW EOS *Kiss*



キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

NEW EOS Kiss はきわめてコンパクトなAF一眼レフカメラですが、簡単な全自動撮影から高度な応用撮影まで、さまざまな撮影状況に最適対応する豊富な機能を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手にとりながらこの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れたうえで正しくお使いください。

● ご使用になる前の注意

- ・ 結婚式や海外旅行など大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能することを確認してからお出かけください。
- ・ EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用するとカメラまたはレンズが正常に作動しないことがあります。ご注意ください。また、EOSと他社製品とを組み合わせることでお使いになって生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

● 本文中の以下のマークのついた欄は、それぞれ次のような内容になっています。

- ⚠: 故障などカメラに不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。
- 📖: カメラの基本操作に加えて知っておいていただきたい項目が書かれています。
- 💡: カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。
- ・ 本文中に (→■ページ) と表示されているのは、その箇所と関連のあるページを示しています。あわせてお読みください。
- ・ 撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、67ページの「取り扱い上のご注意」もお読みください。
- ・ 読み終えた使用説明書は必要な時いつでも取り出せる場所において、ご活用ください。

	安全上のご注意..... 4	パネル表示..... 12
	すぐ撮影する方のために..... 8	ファインダー内表示..... 12
	各部の名称..... 10	モードダイヤルについて..... 13
I 撮影の準備を しましょう	ストラップを付ける..... 14	シャッターボタンとオートフォーカス.. 17
	電池のセットと電池容量の確認..... 14	フィルムの入れ方と取り出し方..... 18
	レンズの取り付け方と取り外し方..... 16	
II 撮影しましょう	□全自動マークで撮る..... 20	📷クローズアップマークで撮る..... 26
	赤目緩和機能のセット..... 22	🏃スポーツマークで撮る..... 27
	👤ポートレートマークで撮る..... 24	🌃夜景マークで撮る..... 28
	🏞風景マークで撮る..... 25	
III 簡単な機能を使っ て みましょう	セルフタイマーを利用して撮る..... 29	クォーツ電池用電池の交換..... 31
	日付/時刻を入れて撮る..... 30	パノラマ写真を撮る..... 32
	日付/時刻を変更する..... 31	
IV 色々な写真を撮 って みましょう	AFフレームの選択..... 34	📡ストロボを使って撮る..... 44
	AFフレームから外れた被写体に ピントを合わせる..... 35	部分測光・AEロック撮影..... 47
	P プログラムAEで撮る..... 36	露出の補正方法..... 48
	Tv シャッター速度を決めて撮る..... 38	📷AEB (自動露出ずらし) で撮る..... 49
	Av 絞り数値を決めて撮る..... 40	💡バルブ (長時間露出) 撮影..... 51
	M 自由に露出を決めて撮る..... 42	📷多重露出撮影..... 52
	A-DEP 近くから遠くまでピントが 合った写真を撮る..... 43	ISO フィルム感度を変更する..... 54
		🔊ピントが合ったときの電子音を消す.... 55
		📷フィルムを途中で取り出す..... 56
V E-TTL自動調光撮影	EXシリーズスピードライトを利用したE-TTL自動調光撮影..... 57	
VI 資 料	写真の基本用語解説..... 61	AFモードとフィルム巻き上げの関係..... 65
	「故障かな？」とお考えになる前に..... 63	主な別売アクセサリ..... 66
	露出表示が点滅したときは..... 64	取り扱い上のご注意..... 67
	撮影機能の組み合わせ一覧..... 65	主な性能の一覧..... 69

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

その他の絵表示の例

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止

⊙ 記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。

⊙ の中に具体的な禁止内容が描かれています。

⚠警告

電池

- ⊙ このカメラで指定されていない電池は、使用しないでください。電池（乾電池）の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
- ⊙ 新しい電池と古い電池を混ぜての使用はしないでください。また、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜての使用はしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
- ⊙ 電池を火の中に入れたり、分解、加熱、ショートは絶対しないでください。また、水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
- ⊙ アルカリ乾電池、リチウム電池など充電できない電池を無理に充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
- ⚠ 電池を取り外した場合は、お子様の手の届かないところへ置いてください。万一、飲み込んだ場合、電池が壊れて、電池の液で胃や腸が冒される恐れがありますので、ただちに医師と相談してください。
- ⚠ 万一、カメラ（電池）が熱くなる、煙がでる、焦げ臭い等の異常状態が起こった場合、そのまま使用すると火災、火傷の原因になります。火傷には、十分注意しながら速やかに電池を取り出し、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- ⚠ 電池を廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃却の際、他の金属と混ざると、発火、破裂の原因となります。
- ⚠ 電池の「+」と「-」の向きをまちがえないようにしてください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。

⚠警告

ストロボ

- ⊘ ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。
特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
- ⊘ ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。火傷の原因となります。
- ⊘ 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。

その他取り扱い

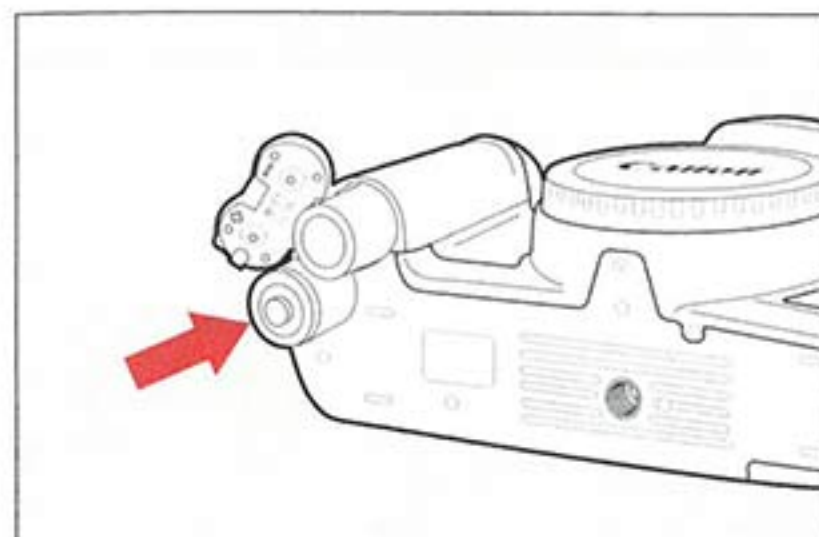
- ⊘ 自分でカメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。
- ⊘ 落下等により、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
- ⊘ レンズまたは、レンズをつけたカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- ⊘ 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。
- ⚠ カメラは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
- ⊘ 自動車などの運転中に運転者は、絶対にカメラを操作しないでください。交通事故の原因となります。

⚠注意

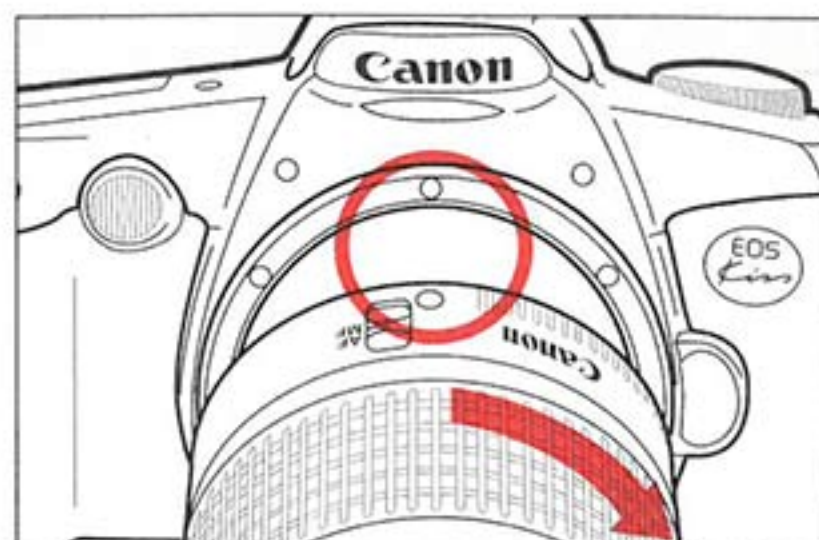
その他取り扱い

- ⊘ カメラを高温状態の車の中に放置したり、熱いものの近くに置いたりしないでください。カメラ自体が高温になり、触ると火傷の原因となることがあります。
- ⊘ カメラを低温状態中に放置しないでください。カメラ自体が低温になり、触るとけがの原因となることがあります。
- ⊘ レンズまたは、レンズをつけた一眼レフカメラを日光の下にレンズキャップを付けないまま放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
- ⚠ カメラをストラップで下げているときは、他の物に引っ掛かったりしないように注意してください。けがをする原因となることがあります。
- ⊘ カメラを三脚に取り付けたまま移動しないでください。つけたまま移動するとつまずいたり、ぶついたりしてけがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- ⚠ 万一、カメラごと水に落としたり、内部に水が入った場合は、電池を抜いて、速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

すぐ撮影する方のために



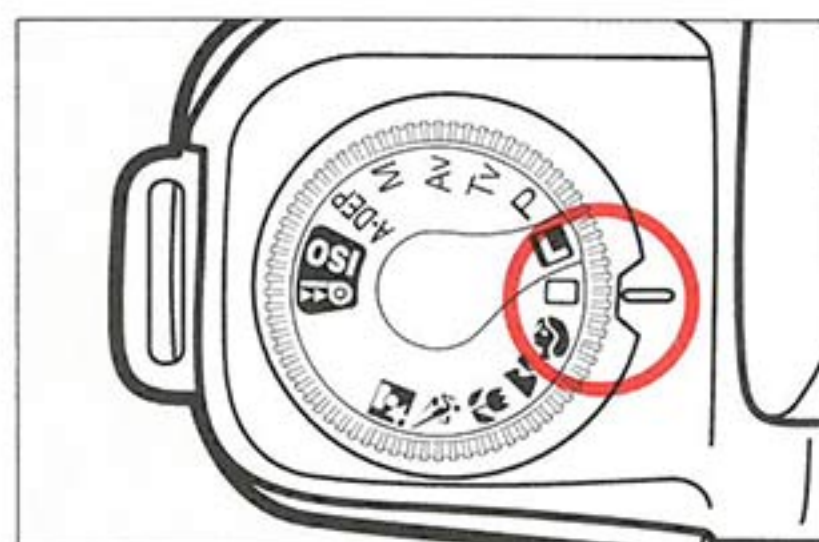
- 1** 電池を入れます。
電池室のふたの表示にしたがってリチウム電池CR123A（またはDL123A）2本を入れます。



- 2** レンズを取り付けます。
レンズとカメラの赤いマークを合わせて、カチリと音がするまでレンズを時計方向に回します。

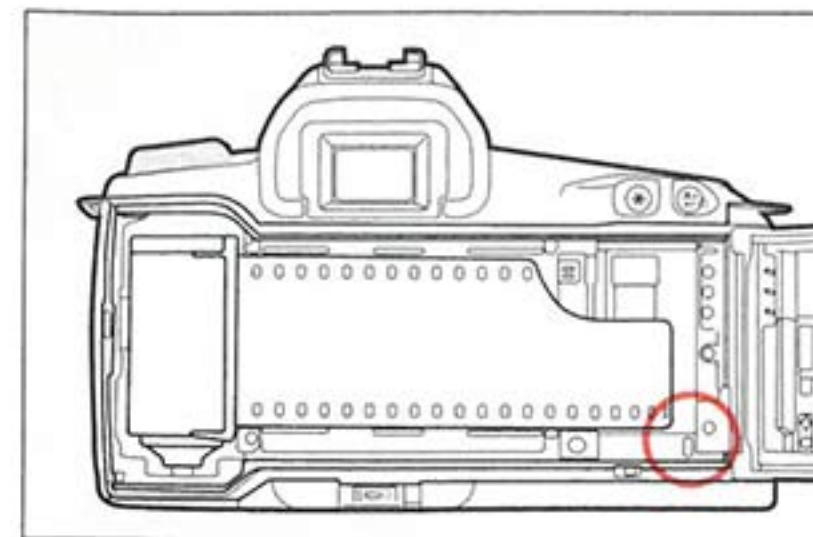


- 3** レンズのフォーカスモードスイッチは必ずAFマークに合わせてください。



- 4** モードダイヤルをPにします。

すぐ撮影する方のために



- 5** フィルムを入れます。
フィルムの先をオレンジ色のマークに合わせて、パチンと音がするまで背ぶたを閉じます。
・ フィルムは最初の撮影コマまで巻き上げられます。



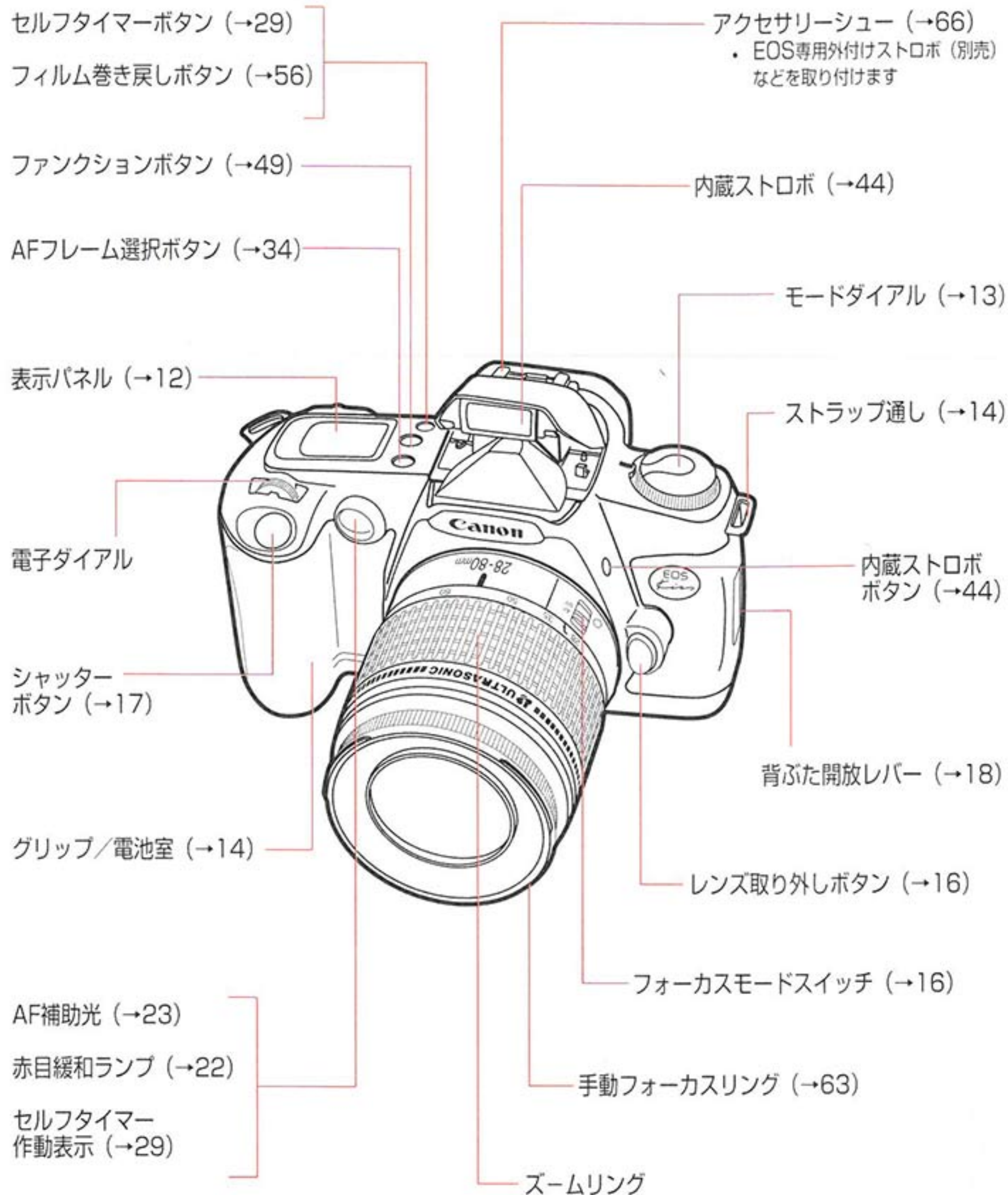
- 6** ピントを合わせます。
写したいものをAFフレーム（□ □ □）の一つに合わせて、軽くシャッターボタンを押し、ピントを合わせます。



- 7** 撮影します。
さらにシャッターボタンを押して撮影します。

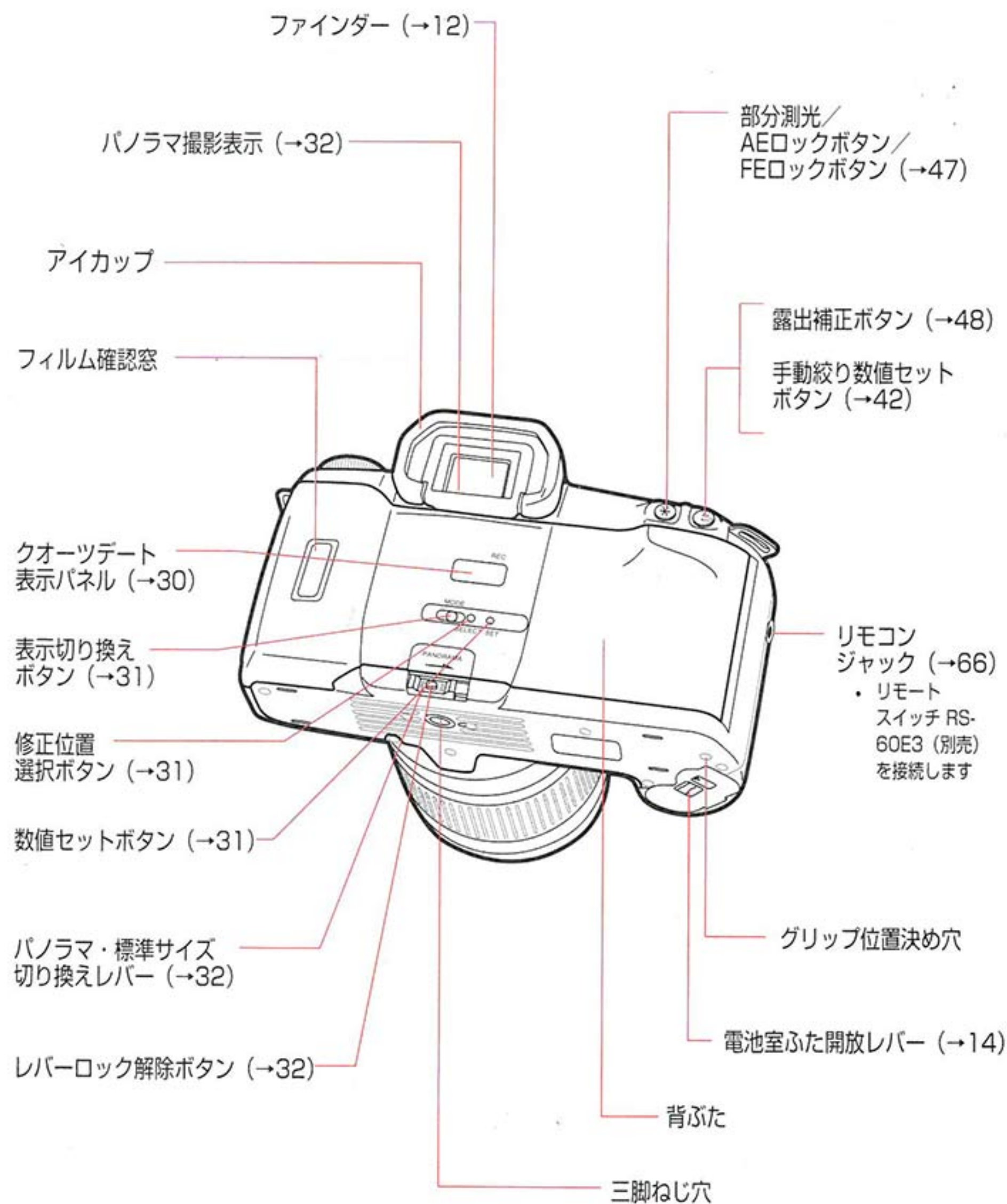
- 8** フィルムを取り出します。
1本のフィルムを撮り終わるとフィルムは自動的に巻き取られます。背ぶたを開けてフィルムを取り出します。

各部の名称

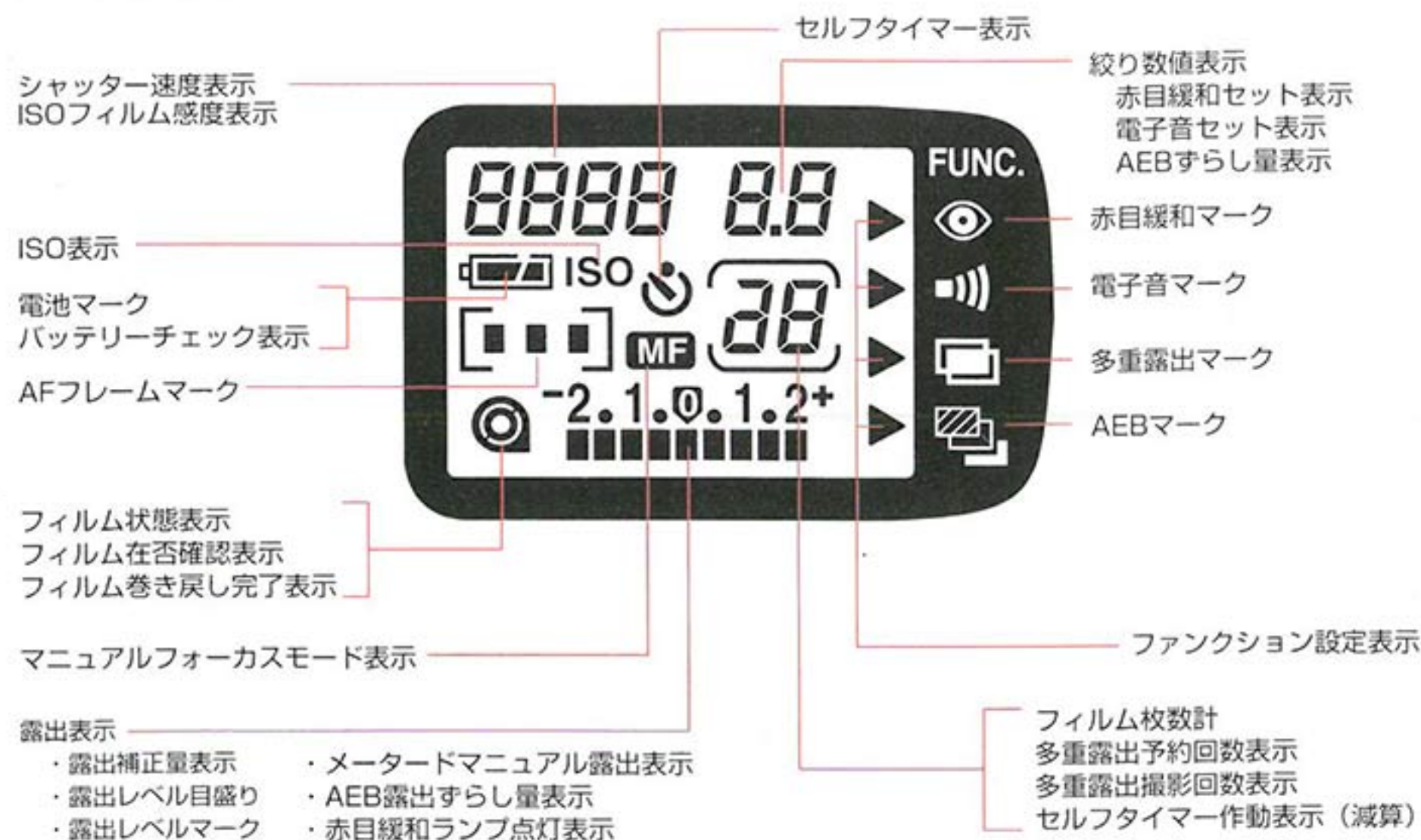


(→■) は、参照ページです。

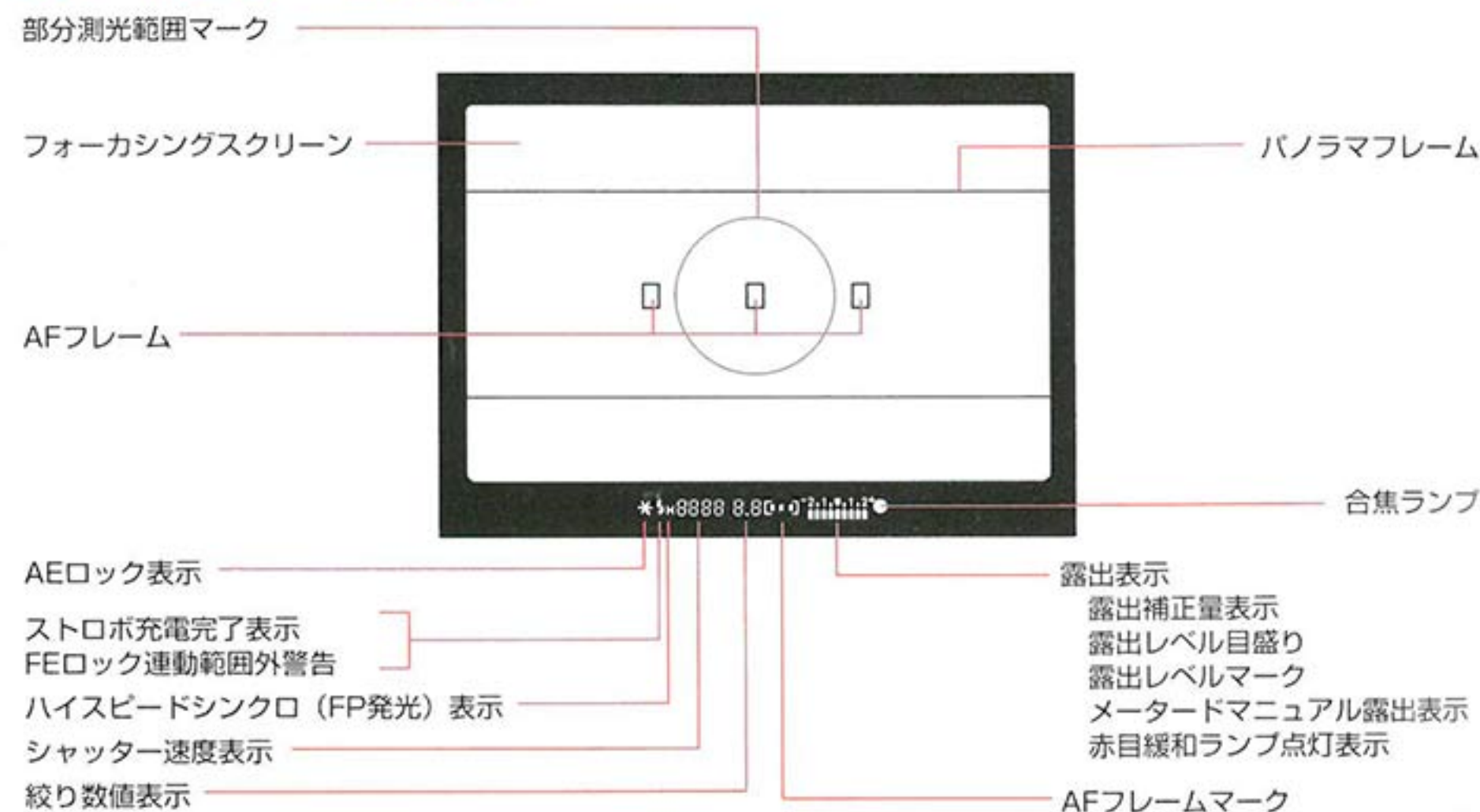
各部の名称



パネル表示 (下の図はすべてを表示したものです。)

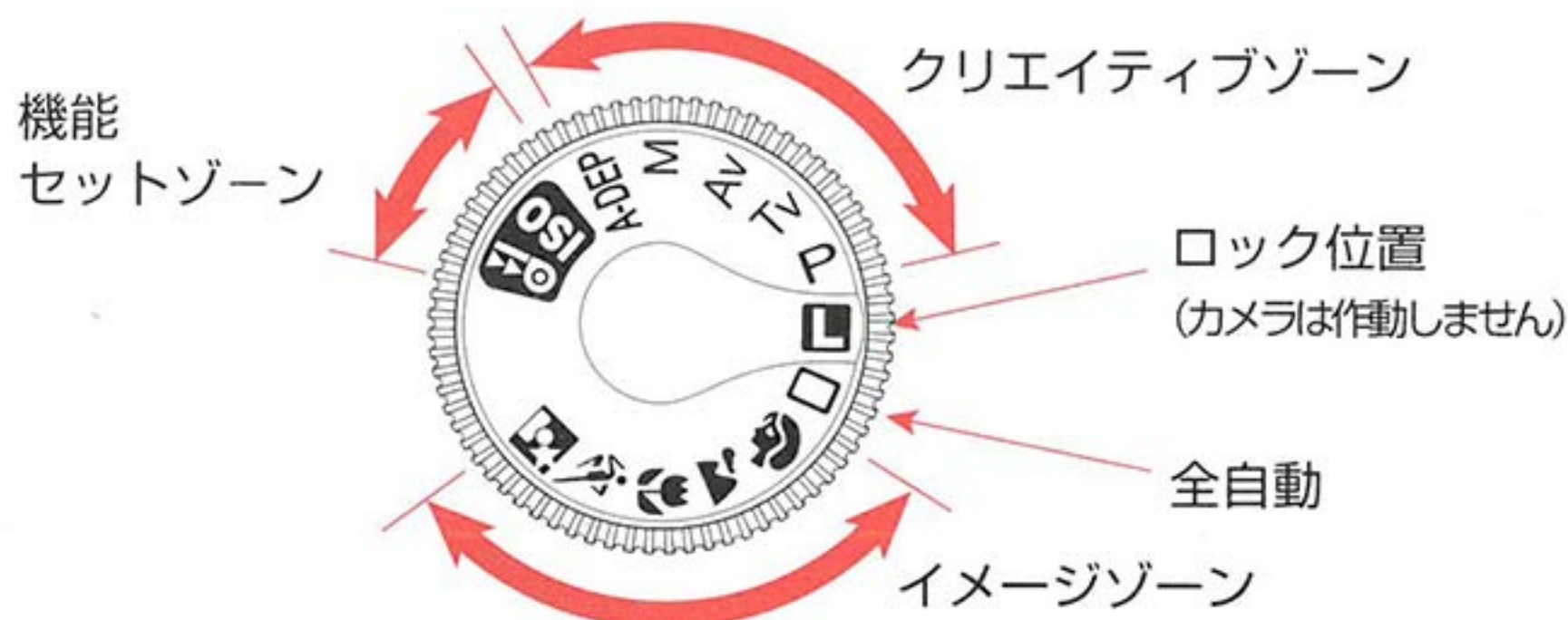


ファインダー内表示 (下の図はすべてを表示したものです。)



モードダイヤルについて

モードダイヤルは、ダイヤル上のマークの位置以外には動きません。



□：全自動 (→20)

カメラまかせの全自動撮影ができます。シャッターボタン以外のボタンや電子ダイヤルによる操作はできません。

イメージゾーン

カメラまかせの状況別全自動撮影ができます。

👤：ポートレート (→24)

🏞️：風景 (→25)

🌸：クローズアップ (→26)

🏊：スポーツ (→27)

🌃：夜景 (→28)

🔒：ロック位置

カメラを使用しないときはこの位置にします。カメラは作動しません。

クリエイティブゾーン

思い通りのさまざまな撮影ができます。

P：プログラムAE (→36)

Tv：シャッター優先AE (→38)

Av：絞り優先AE (→40)

M：マニュアル露出 (→42)

A-DEP：自動深度優先AE (→43)

機能セットゾーン

ISO：マニュアルISO感度 (→54)

🔄：フィルム途中巻き戻し (→56)

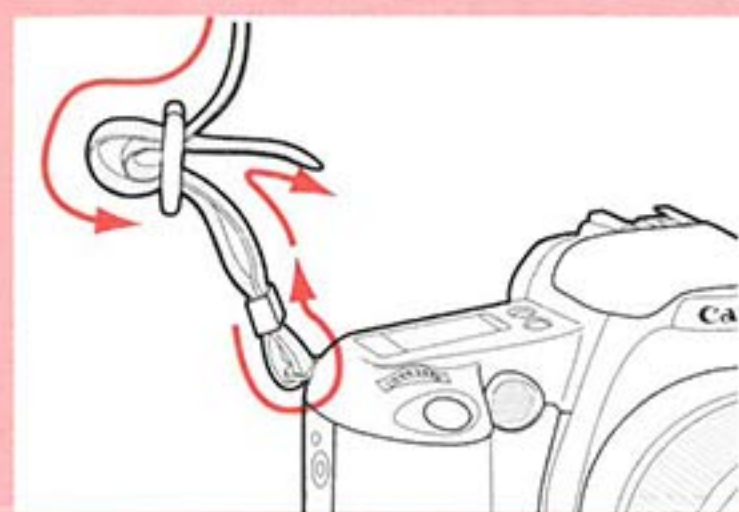
(→■) は、参照ページです。



カメラを使用しないときはモードダイヤルを🔒にしておいてください。カバンの中などで物がシャッターボタンにあたって、シャッターボタンが押され続けていたために電池が消耗してしまった、ということがなくなります。

I 撮影の準備をしましょう

撮影の前にはしておかなければならない準備や、シャッターボタンの働きについて説明しています。



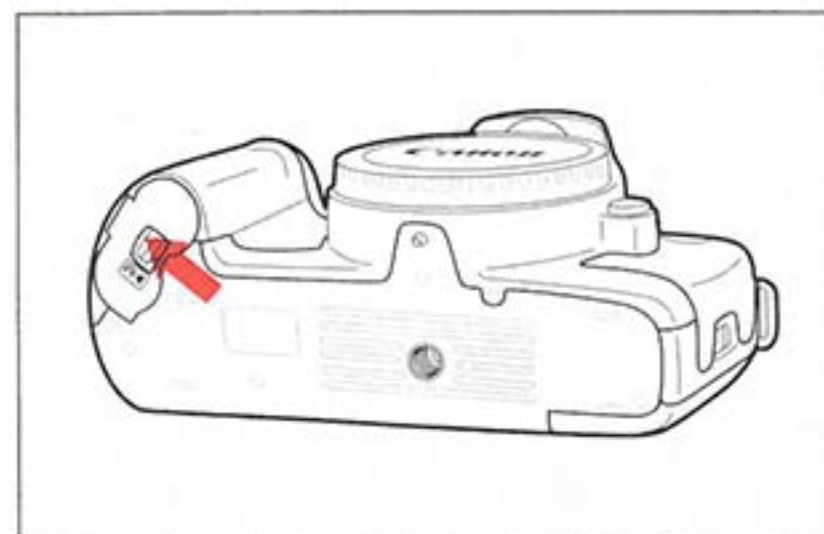
ストラップを付ける

ストラップ（吊りひも）の先を止め具の内側になるように通します。ストラップを引っぱっても止め具の部分でゆるまないことを確かめてください。

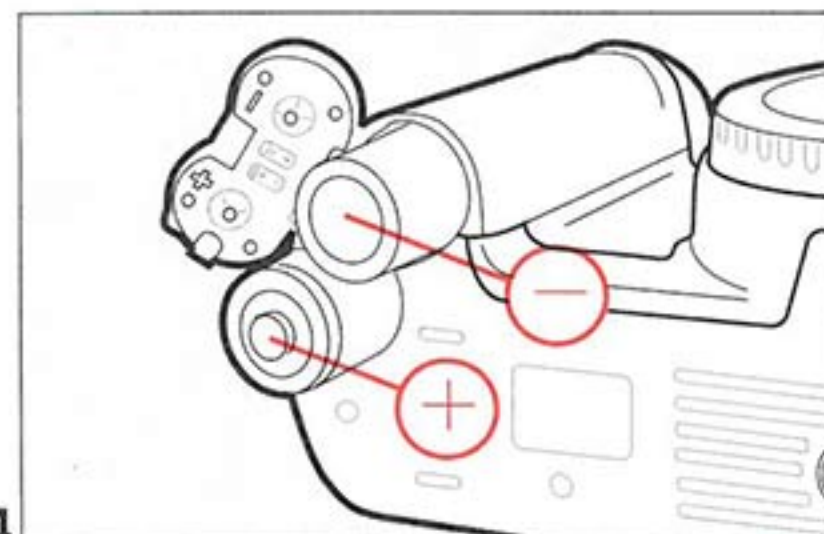
電池のセットと電池容量の確認

電池のセット

電池はリチウム電池CR123A（またはDL123A）2本を使用します。



- 1 電池室開放レバーを矢印の方向にスライドさせて電池室のふたを開けます。

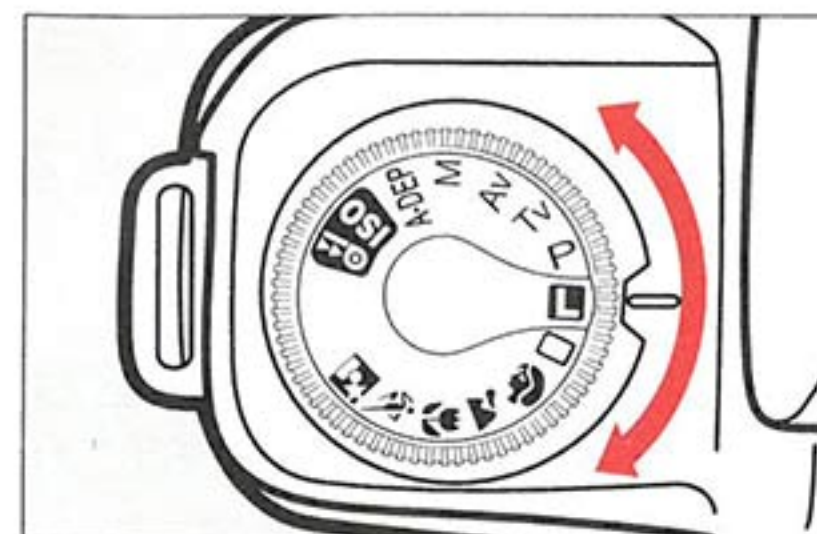


- 2 電池の＋をまちがえないよう電池室のふたの表示にしたがって電池を入れます。

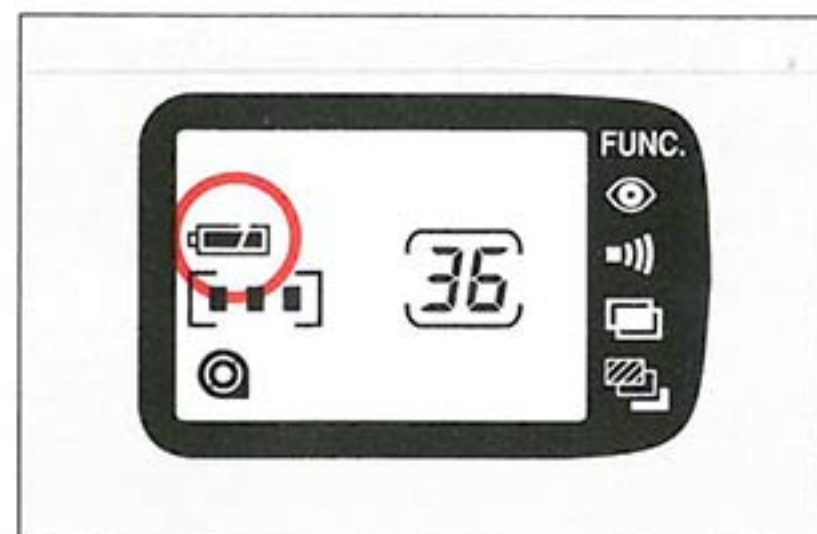
- 3 電池室のふたを閉じます。

I 撮影の準備をしましょう

電池容量の確認



- 1 モードダイヤルをイメージゾーンあるいはクリエイティブゾーンにして、ロックを解除します。



- 2 表示パネルに電池マークが表示されます。電池マークの意味は次のとおりです。

: 電池の容量は十分です。

: 新しい電池を用意してください。

: もうすぐ電池切れになります。

: 68ページを参照してください。

- 電池容量の確認はモードダイヤルのロックを解除する度に行なわれます。

●リチウム電池CR123A（または、DL123A）、2本の寿命（撮影可能本数）

温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温（+20℃）	85本	35本	17本
低温（-10℃）	60本	25本	12本

* テストは、新品電池、24枚撮りフィルムを使って、当社の試験条件で行なっています。

* フィルムを入れずにオートフォーカスしたり、空撮りすると、撮影本数が少なくなります。

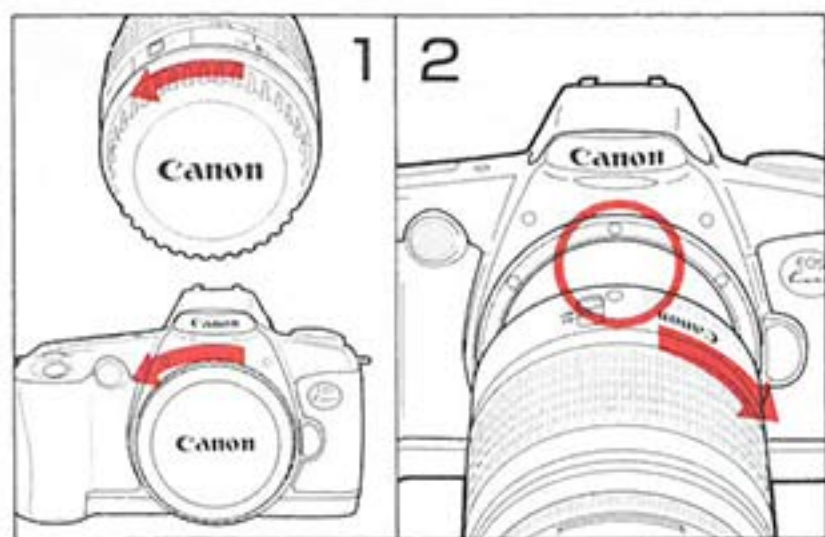


- 表示パネルに何も表示されない場合は電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れなおしてください。



- 撮影前は必ず電池の容量を確認してください。
- 地域によって電池の入手が困難なことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真をたくさん撮るときは、予備の電池をご用意ください。

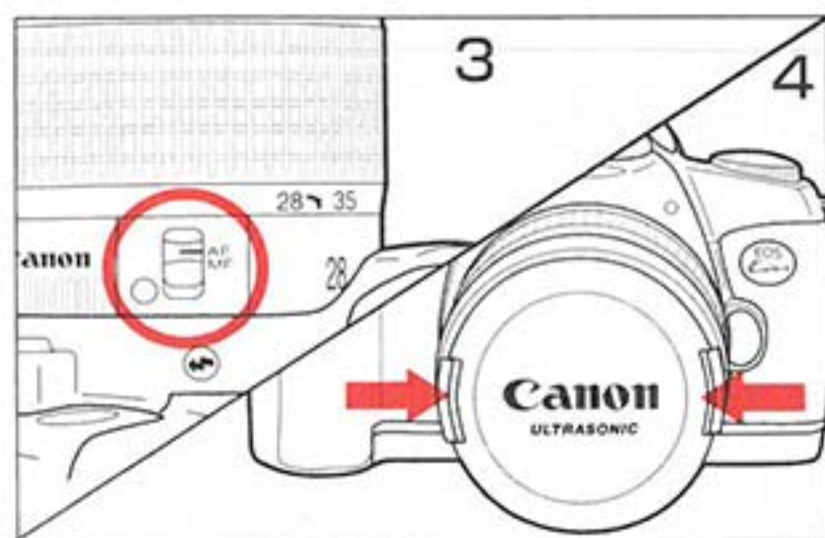
レンズの取り付け方と取り外し方



レンズの取り付け方

1 レンズの底ぶたとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 レンズとカメラの赤いマークを合わせて、レンズを矢印の方向にカチッと音がするまで回します。



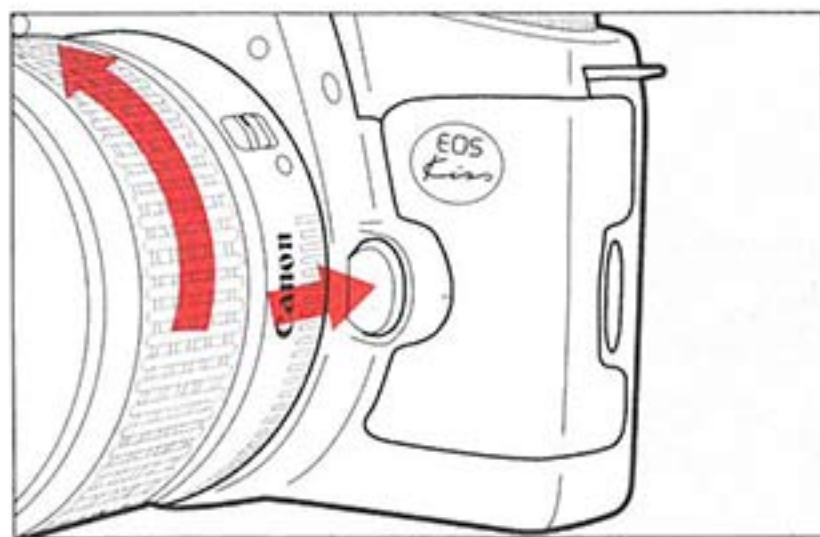
3 レンズのフォーカスモードスイッチをAFにセットします。

- MF（またはM）になっているとオートフォーカスできません。
- オートフォーカス作動中は、レンズの回転している部分に触れないください。

4 レンズキャップを外します。

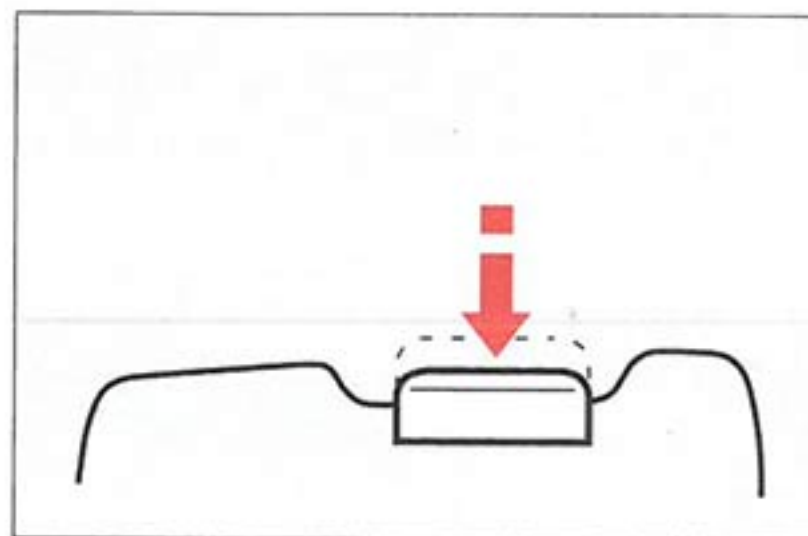
レンズの取り外し方

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回します。



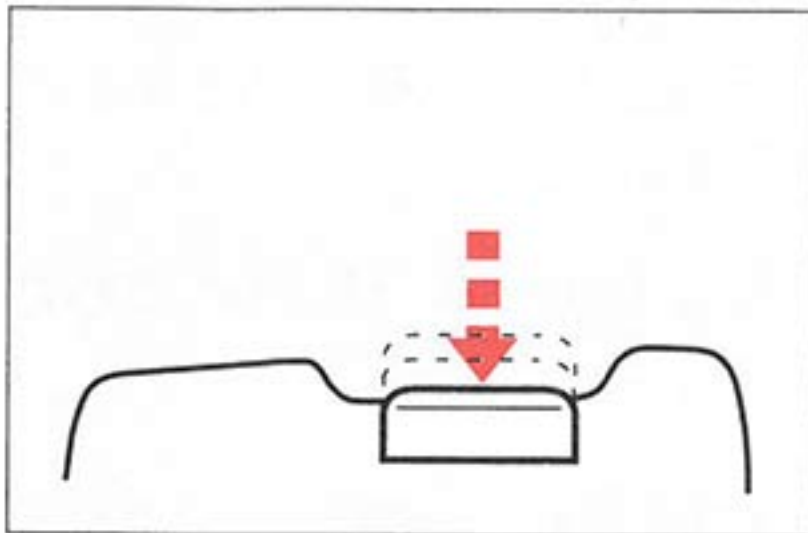
シャッターボタンとオートフォーカス

EOSのシャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで軽く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。シャッターボタンは次のような働きをします。



半押し

- 自動ピント合わせ（オートフォーカス、AF）が働き、写したいもの（被写体）にピントが合うと「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に緑色のランプ（合焦ランプ）がつきます。同時にAFフレームマークが点灯しピントを合わせたAFフレームを表示します。
- 同時にシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（露出）が決まり、表示パネルとファインダー内に表示されます。



全押し

- シャッターが切れて撮影され、フィルムを1コマ送ります。



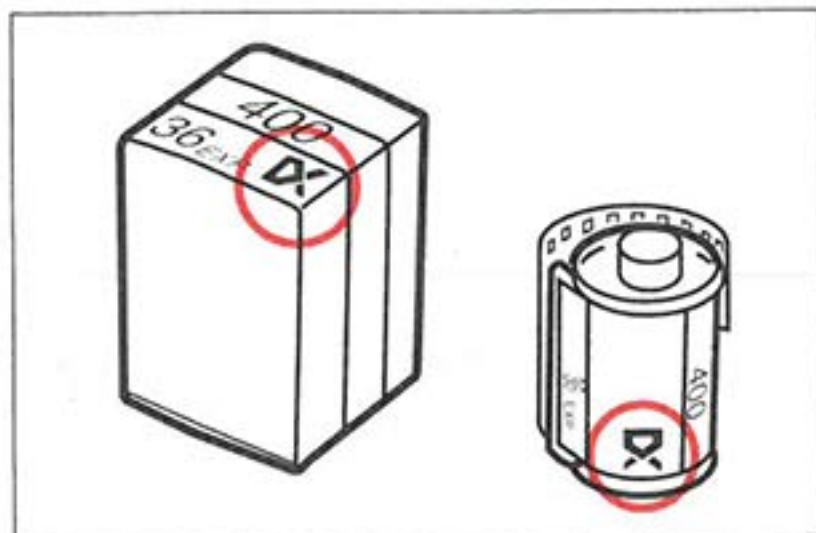
シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ぶれ」といい、全体がぼけた写真になってしまいます。シャープな写真を撮るために次の点に注意してください。

- カメラが動かないようにしっかり構えてください。
- シャッターボタン半押しの状態から撮影してください。

フィルムの入れ方と取り出し方

フィルムの入れ方

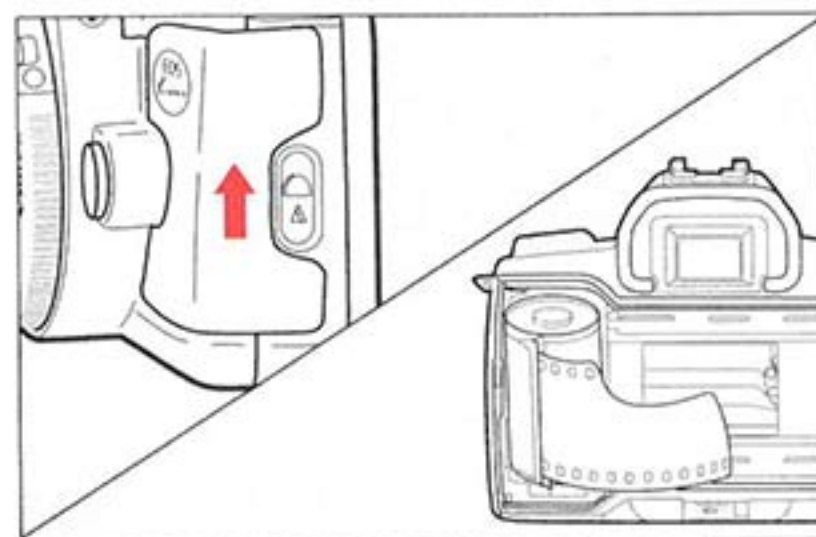
フィルムをセットすると一度フィルムを全部巻き取り、撮影のたびに1コマずつ巻き戻していきます。フィルム枚数計には常に残っているフィルムの枚数が表示されます。



フィルムにはDXコードが付いていて、フィルムの感度が自動的にセットされます。

- DXコードが付いていないフィルムは手動でフィルムの感度をセットします。54ページの「フィルム感度を変更する」をお読みください。

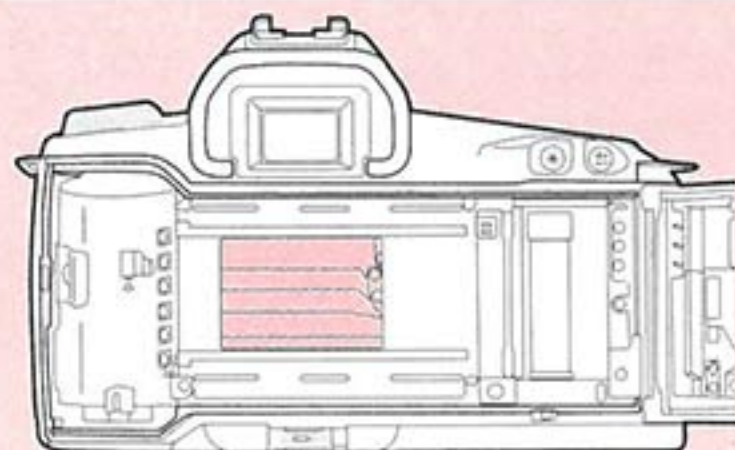
1 モードダイヤルのロックを解除します。



2 背ぶた開放レバーを上げて背ぶたを開きます。

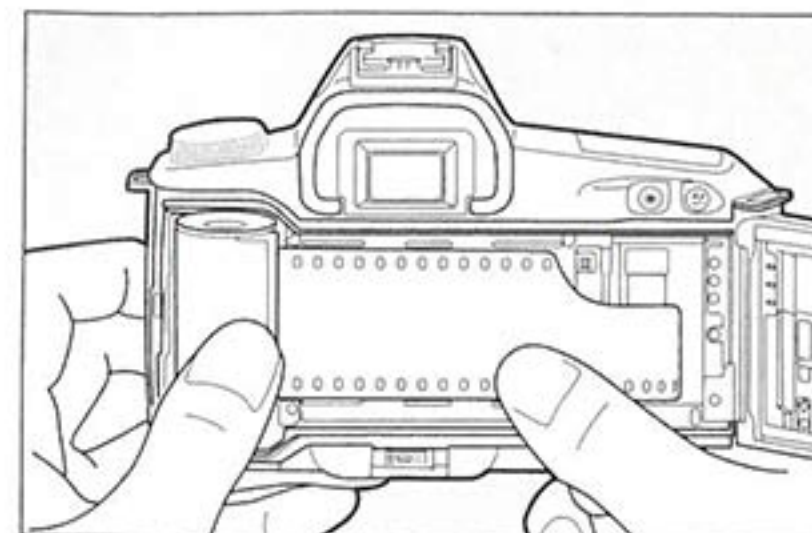
3 フィルムを図のように斜めにしながら入れます。

このカメラの特性上、赤外フィルムは使用できません。



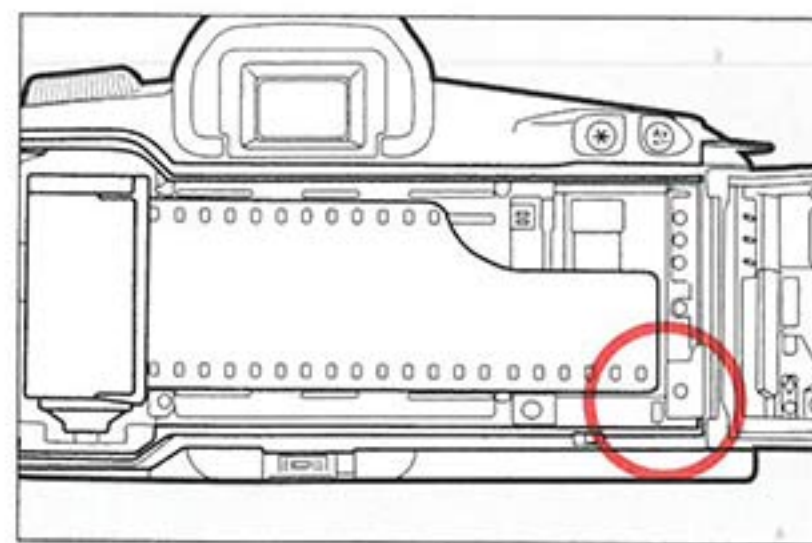
シャッター幕は非常に高い精度で作動します。絶対に手を触れないでください。また、フィルムを入れる際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように十分ご注意ください。

I 撮影の準備をしましょう



4 フィルムの先端をオレンジマークに合わせます。

- フィルムがたるまないよう、フィルム容器（パトローネ）を押さえてください。
- フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネに少し巻き戻してください。



5 フィルムの先端がオレンジマークに合っていることを確認して背ぶたを閉じます。

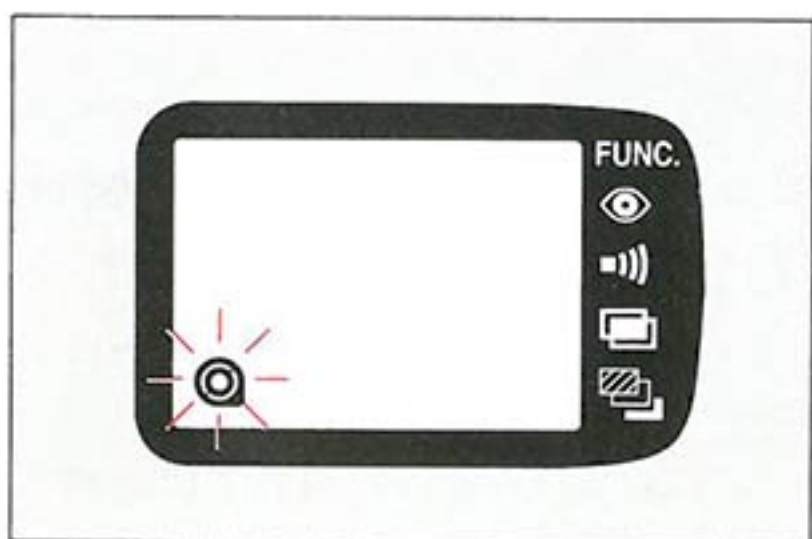
フィルムの巻き取りが始まり、フィルム枚数計の数字が増えていきます。最後にシャッターが切れるような音がして、表示パネルにフィルムマーク（)と撮影できるフィルムの枚数が表示されます。

- フィルム巻き取り中表示パネルにISOフィルム感度が表示されます。
- フィルムの枚数が表示されずが点滅する場合はフィルムが正しくセットされていません。フィルムを入れなおしてください。

フィルムの取り出し方

フィルムの最後のコマを撮影すると自動的にフィルムの巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わると表示パネルがフィルムマークだけの点滅表示になります。表示を確認し背ぶたを開けてフィルムを取り出します。

- の点滅は約3秒で点灯表示に変わります。



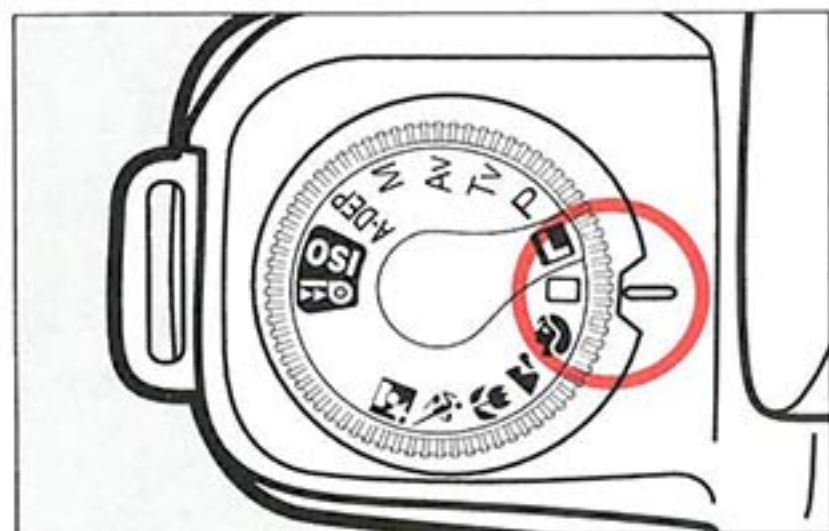
Ⅱ 撮影しましょう

ここではモードダイヤルの□を使って簡単に写真を撮る方法を説明しています。全自動やイメージゾーンは、シャッターボタンを押せばだれでもカメラまかせで撮影ができるよう、すべてが自動セットされています。

また誤った操作による失敗を防ぐため、シャッターボタン以外のボタンや電子ダイヤルによる操作はできないようにしてありますので安心して撮影してください。

□ 全自動マークで撮る

全自動マークでの撮影は、シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。3つのAFフレームで被写体をとらえるので誰でも簡単にきれいな写真が写せます。

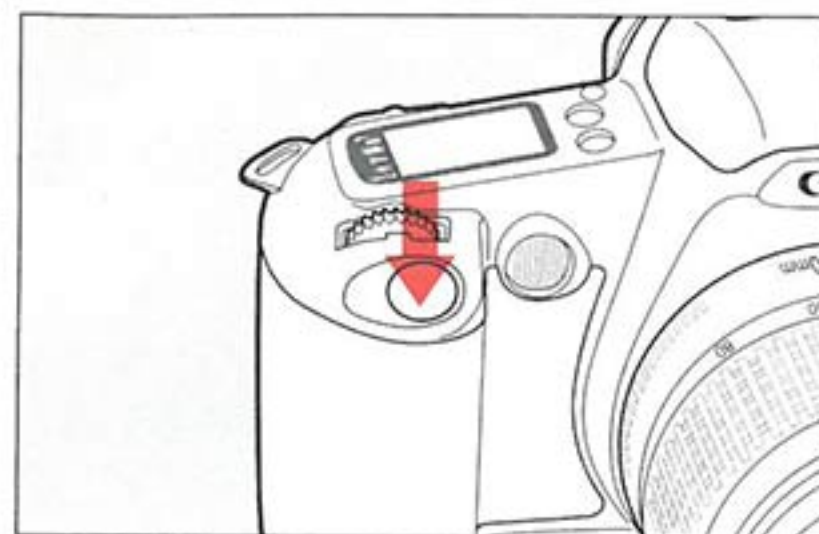


1 モードダイヤルを□にします。



2 ファインダーをのぞいて、3つあるAFフレームのいずれかを被写体に合わせます。

- カメラが主被写体と判断したAFフレームでピントを合わせます。
- 3つのAFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、35ページの「AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる」を参照してください。



3 シャッターボタンを半押しします。被写体にピントが合いシャッター速度と絞り数値が自動的に決まります。

- ファインダー内右下に緑色の合焦ランプがつきます。
- 表示パネルとファインダー内にピントが合ったAFフレームマークが点灯します。
- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。
- 被写体が暗いときや日中逆光のとき、ストロボが自動発光します。



4 シャッターボタンを全押しして撮影します。



- 合焦ランプの点滅
合焦ランプが点滅するときはシャッターが切れません。63ページを参照してください。
- 複数のAFフレームマーク表示
ファインダー視野外下のAFフレームマークが、複数表示される場合があります。その時は、表示に対応するAFフレームが捉えたすべての点にピントが合っています。
- AFフレーム自動選択による主被写体の判断
3つのAFフレームで捉えた被写体のうち、原則としてピントが合う最も近距離にある被写体を、主被写体と判断してピントを合わせます。

ストロボの自動発光について

全自動の□、イメージゾーンの👤、👤、👤において被写体が暗いときや、日中逆光などではストロボが自動的に上がって発光します。



- 誤ってストロボの自動ポップアップを阻害した場合は、表示パネルの電池マークが点滅（ 3秒間点滅後点灯）して警告します。その場合はシャッターボタンを半押しすると正常に戻ります。



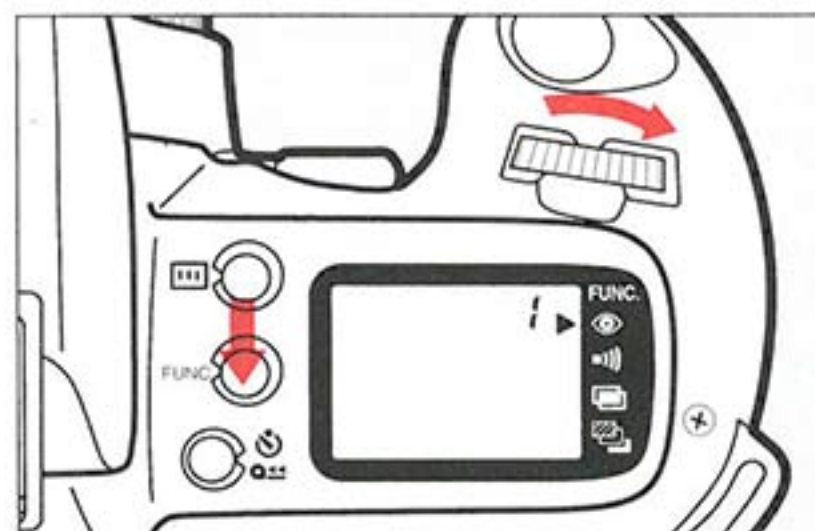
ストロボ撮影が禁止されている場所や、室内の照明を利用した写真を撮りたいときは、P（プログラムAE/36ページ参照）で撮影することをおすすめします。

ストロボ撮影で目が赤くなるのを緩和する

夜や暗い室内などで人をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これはストロボの光が人の目の中で反射して起こる現象で「赤目現象」といいます。

赤目緩和機能のセット

赤目緩和機能をセットすると、ストロボ写真を撮るときに目にやさしい赤目緩和ランプがつき、写る人のひとみを小さくして赤目現象を出にくくします。赤目緩和機能はどの撮影モードでも設定できます。



- 1 ファンクションボタンを押して表示パネルの赤目緩和表示（👁️）横の▶を選択します。
- 2 電子ダイヤルを矢印の方向に回して表示パネルに「1」を表示させます。
 - 解除するときは電子ダイヤルを逆に回して表示パネルに「0」を表示させます。
 - 表示パネルの▶が消え赤目緩和機能は解除されます。
- 3 モードダイヤルを操作するか、6秒間経過するとセットは完了します。



- 赤目緩和ランプはシャッターボタン半押しして、ピントを合わせた後、点灯します。
- 赤目緩和ランプはシャッターボタンを半押しし直すたびに点灯します。
- 赤目緩和ランプがついている間、ファインダー内の赤目緩和ランプ点灯表示が徐々に減少していきます。



- 写される人が赤目緩和ランプを見るようにすると効果がありますが、効果の度合いには個人差があります。
- 赤目緩和の効果を上げるため、赤目緩和ランプ点灯表示が消灯してから撮影することをおすすめします。
- 赤目緩和ランプ点灯中でもシャッターボタンを全押しすると撮影することができます。

AF補助光について

ピントが合いにくい状況では自動的にAF補助光がついて被写体を照らし、ピントを合わせやすくします。

- AF補助光はイメージゾーンでもクリエイティブゾーンでも働きます。
- EOS専用外付けストロボ540EZを併用したときは常に540EZのAF補助光が点灯します。その他のEOS専用外付けストロボではカメラのAF補助光が点灯しますが、クリエイティブゾーンでは手動で中央のAFフレームを選択した場合に限りEOS専用外付けストロボのAF補助光が点灯します。



一枚撮影と連続撮影について

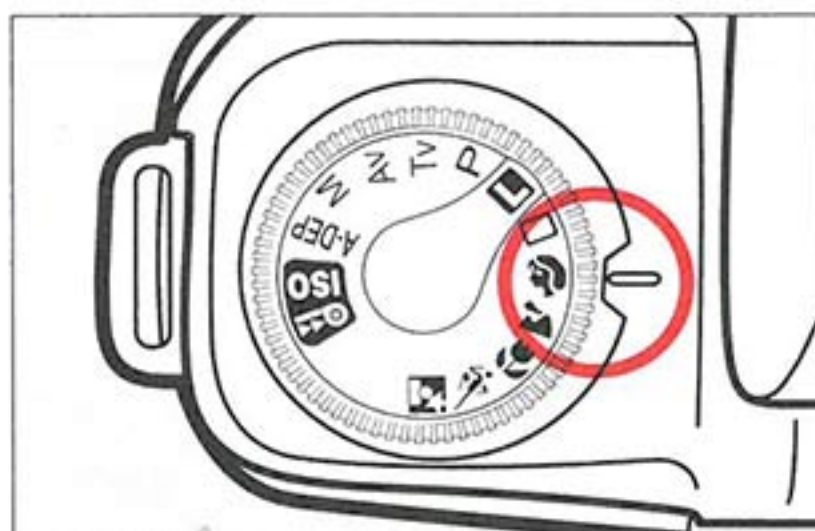
- シャッターボタン全押しを続けた場合のフィルム巻き上げ方式（一枚撮影あるいは連続撮影）は、撮影モードに応じて自動設定されています。内容は、65ページの撮影機能の組み合わせ一覧を参照してください。

ポートレートマークで撮る



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときにセットしてください。

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- 被写体が暗いときや日中逆光のとき、ストロボが自動的に発光します。



モードダイヤルを  にします。

- 撮影の手順は「全自動マークで撮る」(→ 20ページ)と同様です。ご参照ください。



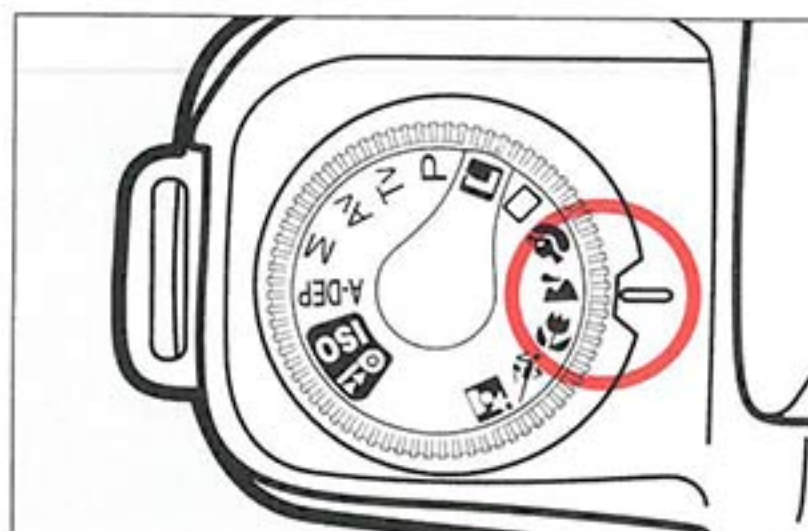
- 被写体の頭から胸がファインダーの中にいっぱいになるくらいにすると背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとよいでしょう。
- 望遠系のレンズを使用すると背景をさらに効果的にぼかすことができます。ズームレンズをお使いの方はレンズを望遠側(28 - 80mmのレンズなら80mmです)にしてください。

風景マークで撮る



広がりのある風景や夕焼けなどを撮るようなときにセットしてください。

- 内蔵ストロボは発光しません。



モードダイヤルを  にします。

- 撮影の手順は「全自動マークで撮る」(→ 20ページ)と同様です。ご参照ください。



- ズームレンズをお使いの方はレンズを広角側にして撮影してください(28 - 80mmのレンズなら28mmです)。近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。
- パノラマ撮影機能を利用するとさらに雄大な感じを表現することができます(32ページ「パノラマ写真を撮る」を参照)。



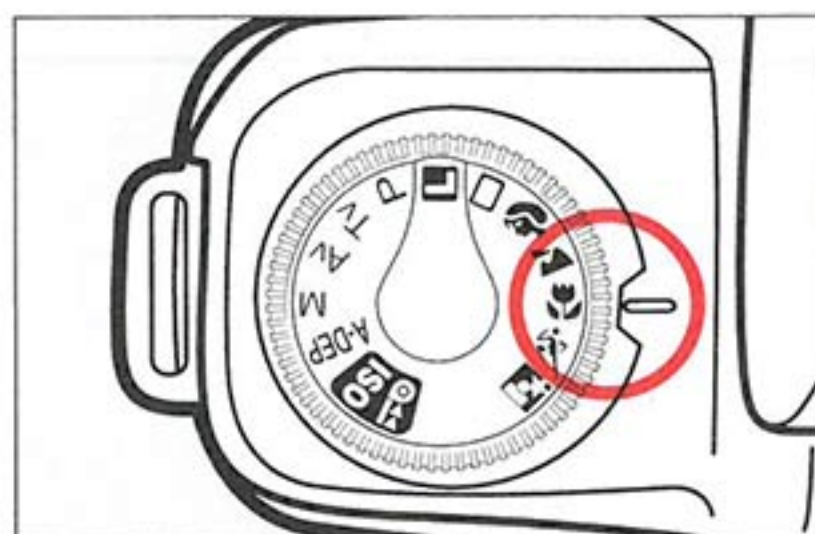
- シャッター速度表示が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ぶれが起きやすくなっています。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします(三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません)。

🌸 クローズアップマークで撮る



レンズに内蔵されているクローズアップ撮影用のマクロ機構を利用して、草花や昆虫を大きく撮るようなときにセットしてください。

- 被写体が暗いときや日中逆光のとき、ストロボが自動的に発光します。



モードダイヤルを 🌸 にします。

- 撮影の手順は「全自動マークで撮る」(→ 20ページ)と同様です。ご参照ください。



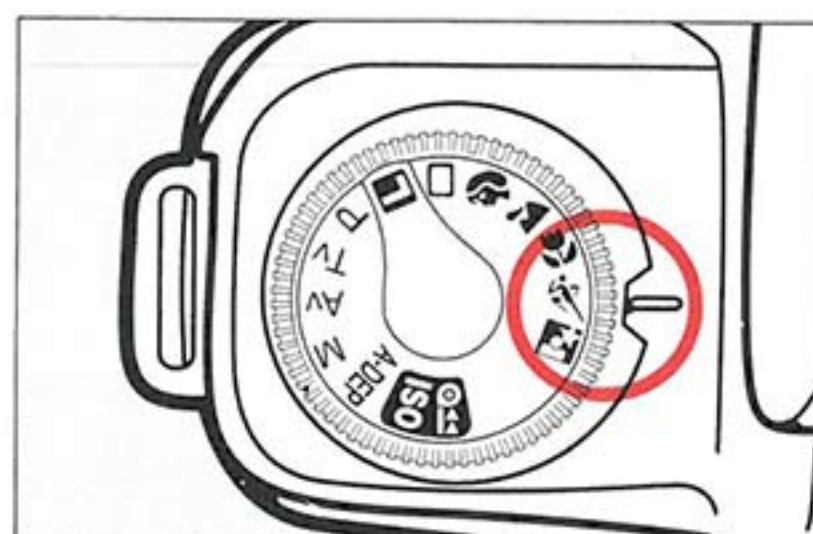
- 使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影しましょう。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影することができます。
- 本格的なクローズアップ撮影には別売のマクロレンズとマクロリングライト ML-3 の使用をおすすめします。

🏃 スポーツマークで撮る



スポーツや運動会などで、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときにセットしてください。

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- 内蔵ストロボは自動発光しません。



モードダイヤルを 🏃 にします。

- 撮影の手順は「全自動マークで撮る」(→ 20ページ)と同様です。ご参照ください。



- フィルム感度 ISO400以上のフィルムを使うことをおすすめします。
- スポーツ撮影にはEF80 - 200mm F4.5 - 5.6 USM, EF75 - 300mm F4 - 5.6 USM などの望遠系のレンズをおすすめします。

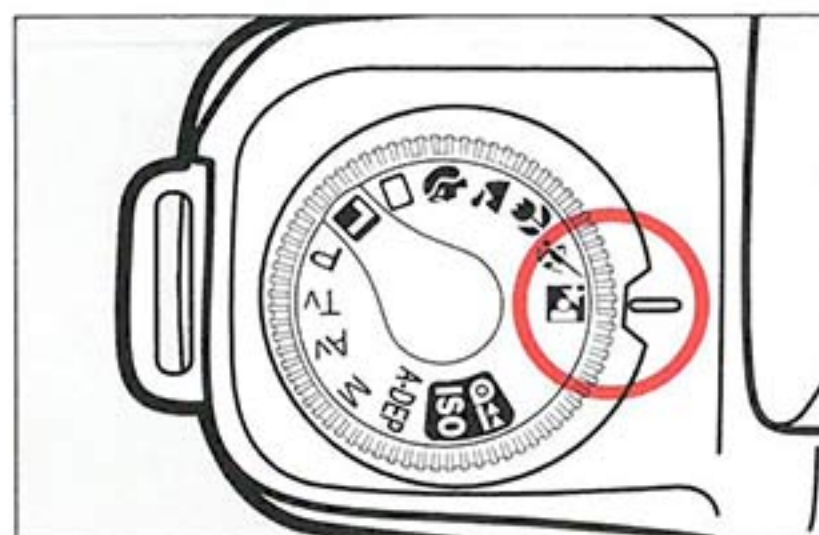


シャッター速度表示が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ぶれが起きやすくなっています。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします(三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません)。

夜景マークで撮る



夕暮れや夜景を背景にして人を撮影するときにセットしてください。
人にはストロボ光が当たり背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影することができます。



モードダイヤルを  にします。



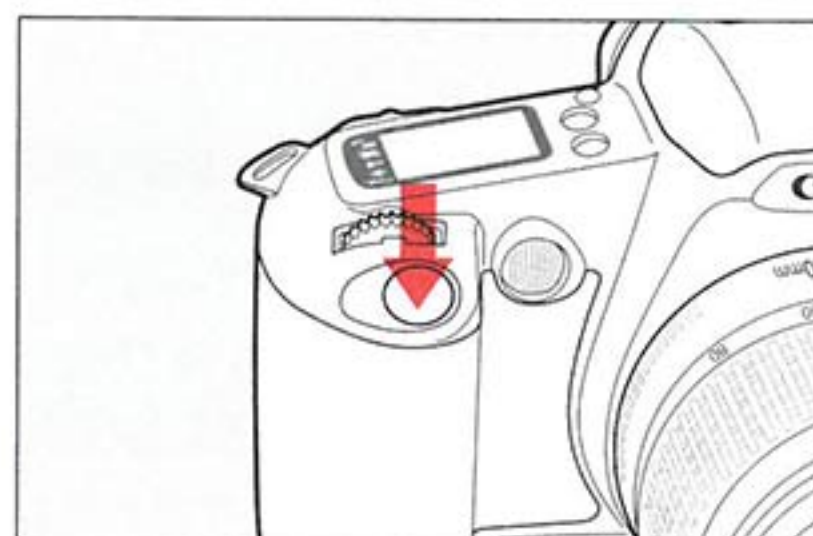
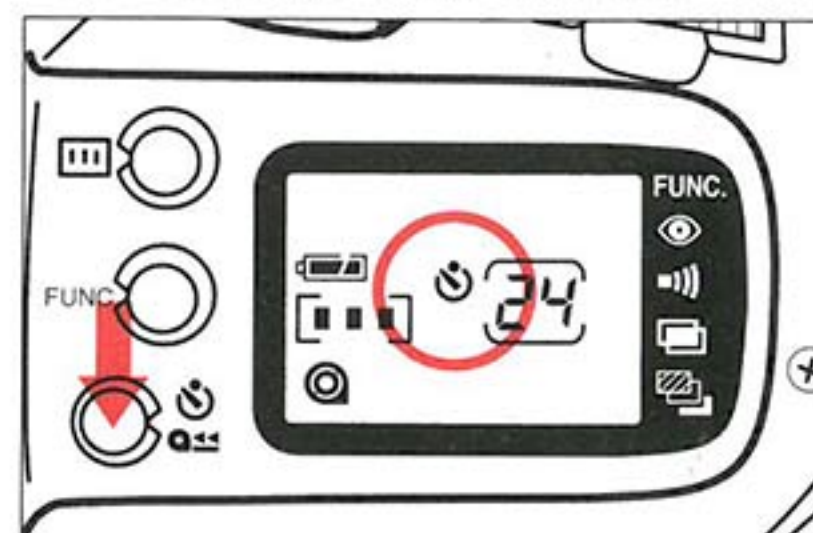
- ISO 400以上の高感度フィルムの使用をおすすめします。
- 夜景マークで撮影をするときは、手ぶれを防ぐために三脚をお使いください。
- 人物が入らない夜景のみの撮影には  風景マークで撮影してください。
- 夜景マーク撮影ではシャッター速度が遅くなります。ストロボが発光してもすぐには動かないよう写真を撮られる人に声をかけてください。
- セルフタイマーを併用した時は、赤目緩和ランプが一瞬光って撮影終了を示します。
- EOS専用外付けストロボ併用時も  夜景マークで撮影できます。
- 夜景モードで日中撮影を行った時は、全自動撮影と同じになります。

Ⅲ 簡単な機能を使ってみましょう

簡単なワン操作で「セルフタイマーを使って記念写真を…」「日付が写し込まれている写真を…」「旅行先でパノラマ写真を…」など、EOSの機能を使った写真を撮ることができます。

セルフタイマーを利用して撮る

セルフタイマーは自分自身を含めた記念撮影などに使用します。イメージゾーンでもクリエイティブゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



- カメラの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピンボケ写真の原因となることがあります。
- セルフタイマーの作動を途中で解除するときは、もう一度セルフタイマーボタンを押してください。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック (→35ページ) してをして撮影します。

1 セルフタイマーボタンを押します。

- 表示パネルに  が表示されます。
- もう一度セルフタイマーボタンを押すと、セルフタイマーは解除されます。
- モードダイヤルを  にすると、セルフタイマーは解除されます。

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、シャッター速度と絞り数値を確認します。

3 ファインダーをのぞいたままさらにシャッターボタンを押して撮影します。

電子音が次のように鳴り、10秒後にシャッターが切れます。

最初ゆっくり (2回/秒) ピッ、ピッ→8秒間

次に早く (8回/秒) ピピピピ →2秒間

- セルフタイマー作動中は表示パネルにシャッターが切れるまでの秒数が減算で表示されます。
- セルフタイマー撮影では、シャッターが切れる2秒前から赤目緩和ランプが付きま。

日付／時刻を入れて撮る

このカメラには2019年までのオートカレンダーが組み込まれているクォーツデートがついています。撮影と同時に日付や時刻を写真に写し込むことができます。クォーツデート表示パネルには「年月日」が表示されています。そのまま撮影すると写真に日付が写し込まれます。

日付／時刻の写し込みは全自動、イメージゾーン、クリエイティブゾーンおよびパノラマのどの撮影でもできます。

表示切り換えボタン (MODE) を押すとクォーツデート表示パネルの表示が次のように変わります。

<年月日>表示 **'96 M 20** (1996年10月20日)

<日時分>表示 **20 16:45** (20日16時45分)

<ハイフン>表示 **- - - - -** (写し込み無し)

<月日年>表示 **M 20 '96** (10月20日1996年)

<日月年>表示 **20 M '96** (20日10月1996年)

- Mは「月」を表します。
- -は写し込みを確認するマークです。シャッターを切ると点滅して日付／時刻の写し込みを知らせます。



- 日付は表示パネルの表示と異なり、上の写真のように写し込まれます。

日付／時刻の写し込みをしないとき

日付や時刻の写し込みをしないときは、表示切り換えボタンを押してクォーツデート表示パネルに「- - - - -」を表示させます。

Ⅲ 簡単な機能を使ってみましょう

日付／時刻を変更する

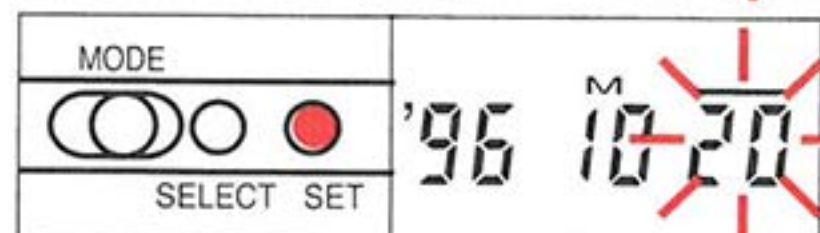
日付や時刻を変更するときは次のようにします。



- 1 表示切り換えボタン (MODE) を押して、クォーツデート表示パネルに変更する日付 (時刻) を表示します。



- 2 修正位置選択ボタン (SELECT) を押して修正する数字を点滅させます。



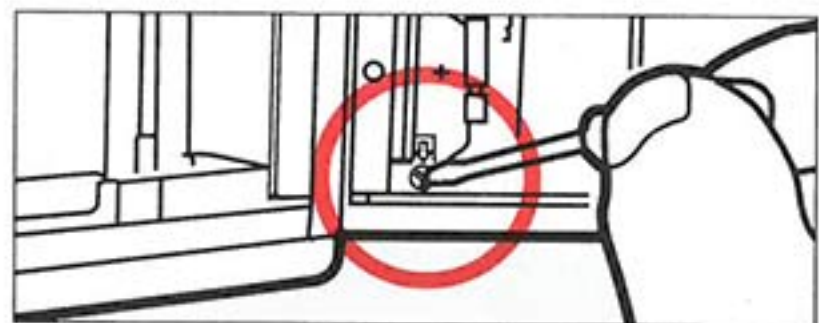
- 3 数値セットボタン (SET) を押して正しい数字をセットします。



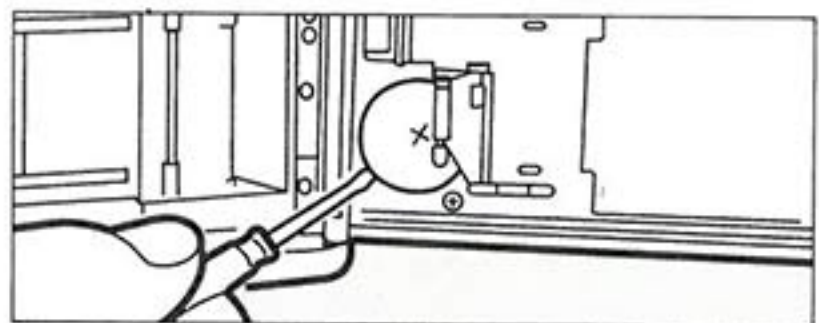
- 4 点滅している数字がなくなるまで、修正位置選択ボタン (SELECT) を押します。点滅している数字がなくなれば、日付 (時刻) のセットは完了します。

クォーツデート用電池の交換

クォーツデート表示パネルが薄くなったら電池を交換してください。電池の寿命は約3年です。クォーツデート用の電池はリチウム電池CR2025、1個です。



- 1 背ぶたを開け、図に示すねじをゆるめ、電池室のふたを取り外します。



- 2 電池を取り出します。

- 3 新しい電池の+側を上にして入れ、電池室のふたを取り付けます。

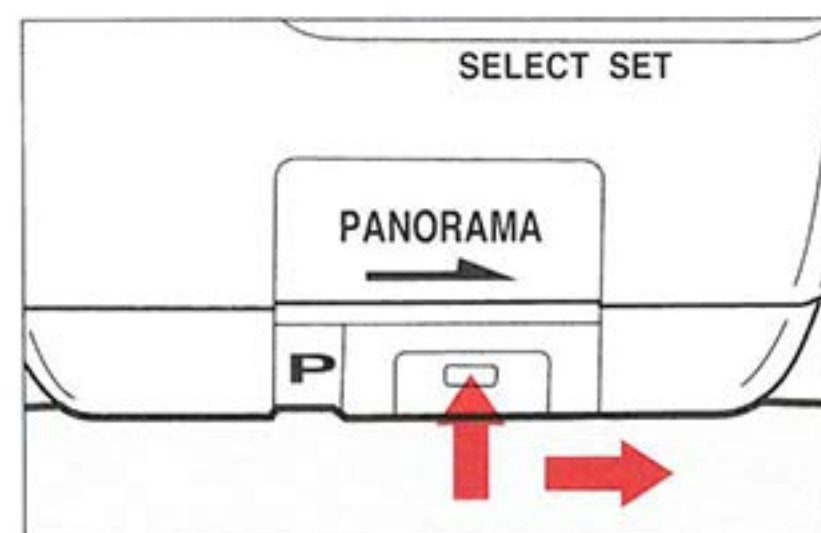
- 4 日付と時刻をセットしなおします。

パノラマ写真を撮る

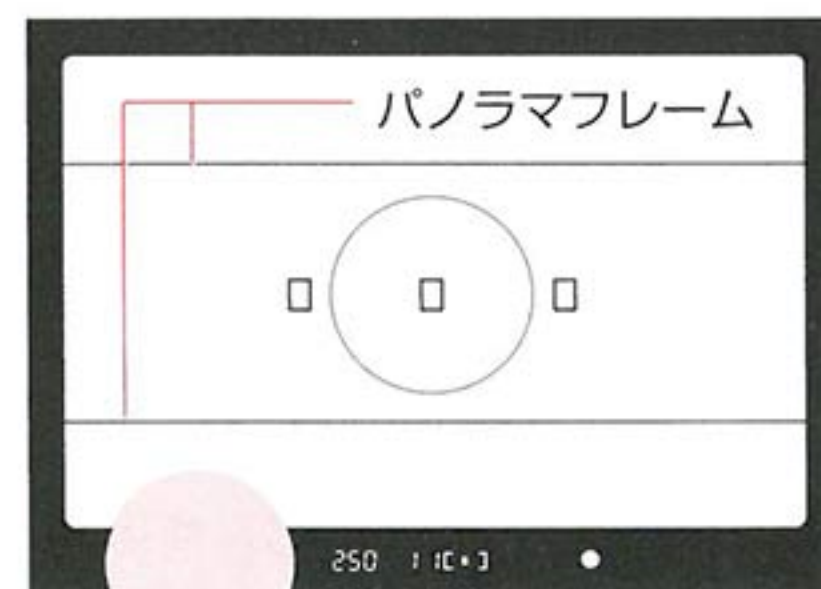
パノラマ・標準サイズ切り換えレバーを操作して、いつでも標準サイズの写真とパノラマサイズ（パノラマモード）の写真の切り換えて撮ることができます。

パノラマ撮影は全自動、イメージゾーンおよびクリエイティブゾーンのどれでもできます。

- このカメラのパノラマ写真とは、フィルムの上下の部分を光りが当たらないようにカバーして約13 × 36mm（横長）の写真を撮り、プリントするときにはパノラマサイズ（89 × 254mm）に仕上げた写真のことです。



1 レバーロック解除ボタンを押しながらパノラマ・標準サイズ切り換えレバーをパノラマ側にスライドします。



2 パノラマフレーム内で構図を決めて、撮影します。

- シャッターボタンを半押しすると、ファインダー左下にオレンジ色のパノラマ撮影表示がつきます。
- パノラマ撮影表示は撮影後約0.5秒間ついています。

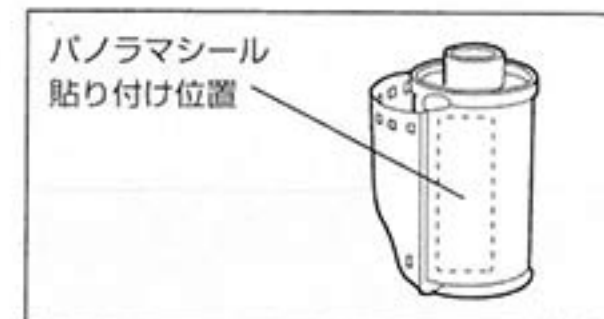
III 簡単な機能を使ってみましょう

パノラマ撮影をしたフィルムについて

パノラマサイズで撮影したフィルムの現像・プリントは通常の現像・プリント処理とは異なります。次の表にしたがってカメラに添付されているシールを図示した位置に貼ってから現像・プリントに出してください。

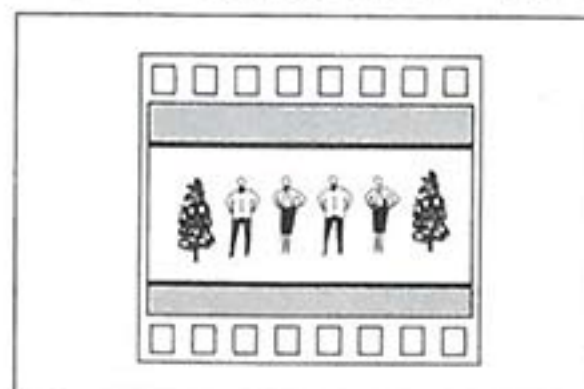
DXコードおよびバーコードがついているフィルムにシールを貼るとき、それらのコードがシールで隠れないようにしてください。

	フィルムの使用状況	お店への依頼方法	パノラマシール
混在	標準サイズ／パノラマサイズの切り換えを行った	「パノラマモード、標準モードの両方で撮影しました。」	混在 パノラマ/標準
全数パノラマ	パノラマサイズのみ使用	「パノラマモードで撮影しました。」	全数 パノラマ

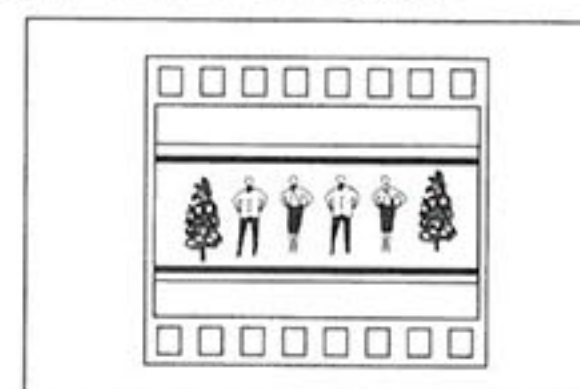


- パノラマシールがなくなりましたら、キヤノンサービスセンターへお問い合わせください。
- カメラのパノラマ機構が破損しますので、パノラマアダプターPA-1000を取り付けてパノラマ撮影しないでください。

パノラマ撮影したフィルムとプリントについて



フィルム上の撮影範囲
パノラマ撮影するとフィルム上では、図のように上下がカットされた形で撮影されます。撮影枚数は変わりません。



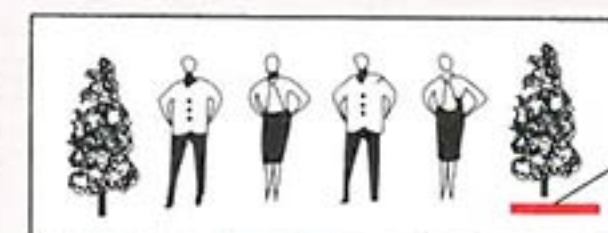
プリントされる範囲
パノラマプリントでは、フィルムに写っている少し内側がプリントされることがあります。



通常プリントした場合
パノラマ撮影したフィルムを通常のプリントにすると、画面の上下に黒い帯が写し込まれます。



設定した日付や時刻は、パノラマサイズの写真にも写し込まれます。（→30ページ）



写し込み位置

IV 色々な写真を撮ってみましょう

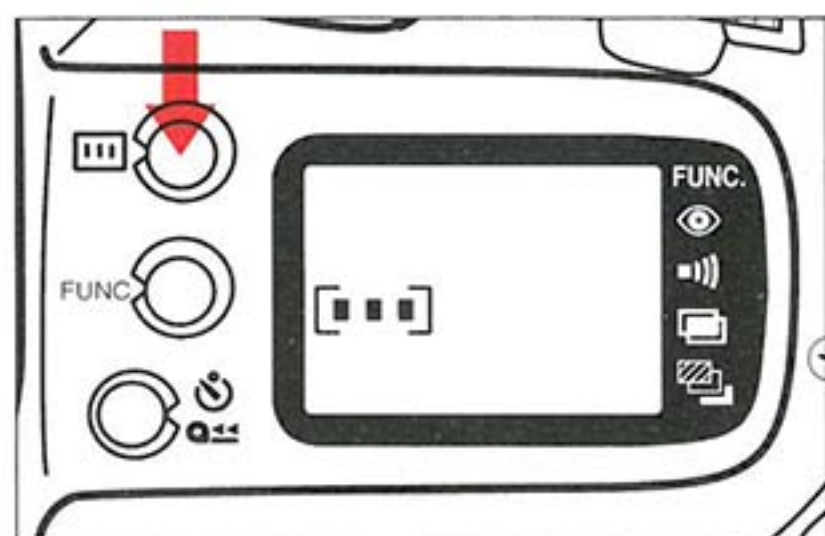
クリエイティブゾーンでは、シャッター速度や絞り、AFフレームを選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。ここでは、P・Tv・Av・M・A-DEPのそれぞれの効果的な使い方を説明しています。

AFフレームの選択

AFフレームとはピントを合わせる枠のことをいいます。AFフレームの選択には自動選択と手動選択があります。全自動、イメージゾーンのすべての撮影モード、およびA-DEPでは自動選択のみとなっていますが、P、Tv、Av、Mの各撮影モードでは、自動選択と手動選択を切り換えることができます。

自動選択AF：撮影状況に応じカメラが自動的に選択したAFフレームでピント合わせが行われます。気軽なスナップ撮影などに適しています。

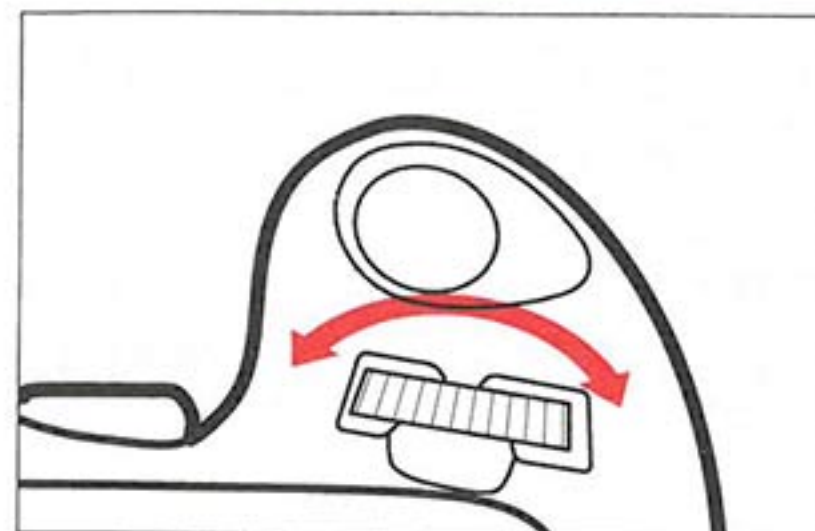
手動選択AF：3つのAFフレームから、自分で選択した任意のAFフレームでピント合わせを行うことができます。狙った被写体に確実にピントを合わせたい場合や、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたい場合に便利な機能です。



AFフレーム自動選択AFと手動選択AFの設定

- 1 モードダイヤルをP、Tv、Av、Mのいずれかにします。
- 2 AFフレーム選択ボタンを押します。
 - 選択されているAFフレームに対応したAFフレームが点灯します。
 - ボタンから指をはなしても約6秒間点灯しています。

IV 色々な写真を撮ってみましょう



手動で選択したAFフレームは、モードダイヤルを全自動、イメージゾーンにすると解除され、自動選択AFになります。

- 3 表示パネルあるいはファインダー内表示を見ながら電子ダイヤルを回し、希望する状態を選択します。

自動選択AF	[■ ■ ■]
左AFフレーム選択	[■]
中央AFフレーム選択	[■]
右AFフレーム選択	[■]

- 表示は循環して換わります。

- 4 シャッターボタンを半押しして選択操作を終了します。

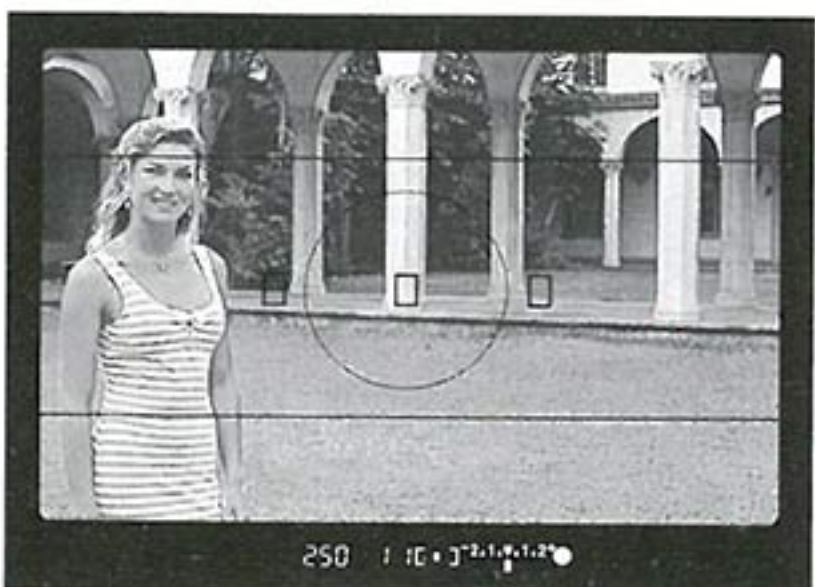
- 半押ししなくても約6秒間たつと選択操作は自動終了します。

AFフレームから外れた被写体にピントを合わせる

撮影構図上、3つのAFフレームに入らない画面の端の被写体にピントを合わせたいときは次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。



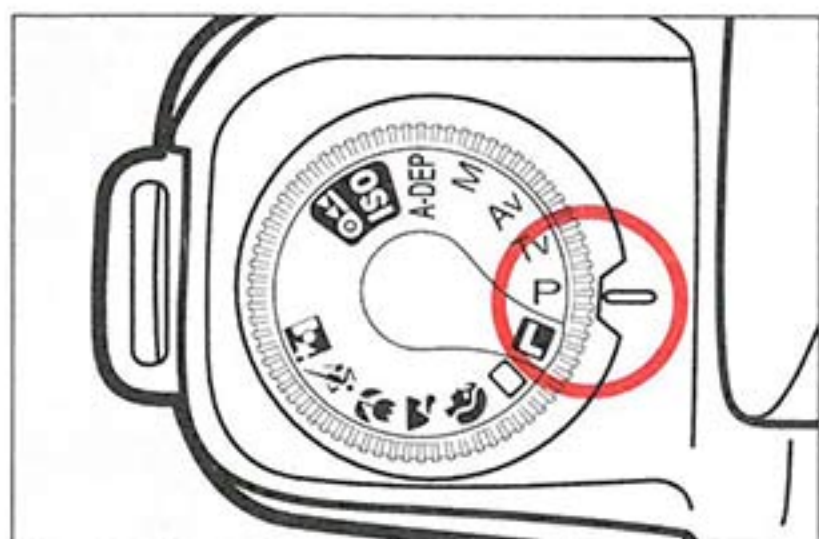
- 1 ピントを合わせたい被写体に、任意に選択したAFフレームを合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。



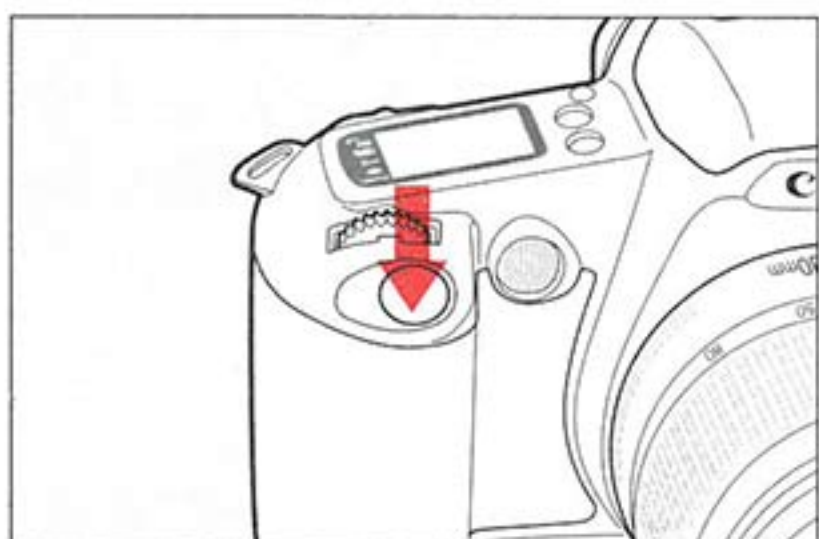
- 2 シャッターボタンを半押ししたままで、撮影構図に変えます。
- 3 シャッターボタンを全押しして撮影します。



全自動マーク（**□**）と同じように気軽に撮影するときのセット位置です。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動セットします。これをプログラムAEと呼びます。

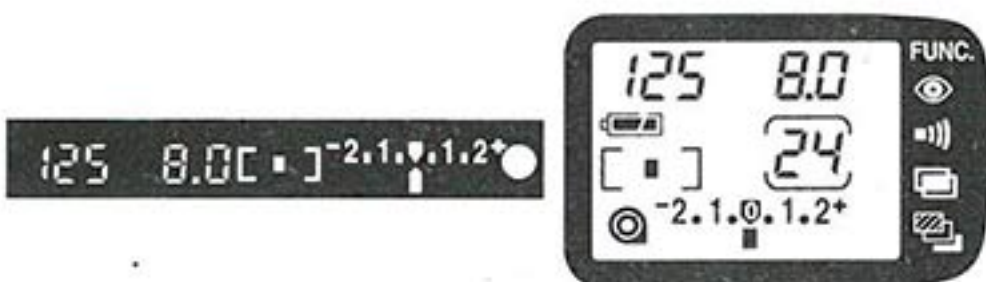


1 モードダイヤルを P にします。



2 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。



3 シャッター速度と絞り数値を確認して撮影します。



クリエイティブゾーンでは、表示パネルやファインダー内にシャッター速度と絞り数値のほかに、露出レベル目盛と露出レベルマークが表示されます。露出レベルマークは、露出補正量やマニュアルで露出を決めるときの露出レベルを示します。



P（プログラムAE）と□全自動モードの違い

Pと□で、自動的に決まるシャッター速度と絞りの組み合わせは、同じですが下記項目の操作の可否（○：可能、×：不可能）が異なります。

機能	P	□全自動
連続撮影	○	×
プログラムシフト	○	×
露出補正	○	×
AEB	○	×
部分測光/AEロック	○	×
AFフレームの手動選択	○	×
内蔵ストロボの強制発光	○	×
EXストロボ使用・ハイスピードシンクロ	○	×
EXストロボ使用・FEロック撮影	○	×

プログラムシフトについて

プログラムAEでは、自動的にセットされたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトと呼びます。

プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値が出るまで電子ダイヤルを回して行ないます。

- 撮影後プログラムシフトは自動的に解除され、元のプログラムに戻ります。
- 内蔵ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。
- プログラムシフトはシャッター速度1/2000または30"、あるいは絞り数値が使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）または一番大きな絞り数値（最小口径絞り）になると止まります。

4秒タイマーについて

- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、表示パネルとファインダー内のシャッター速度と絞り数値は約4秒間表示されています。

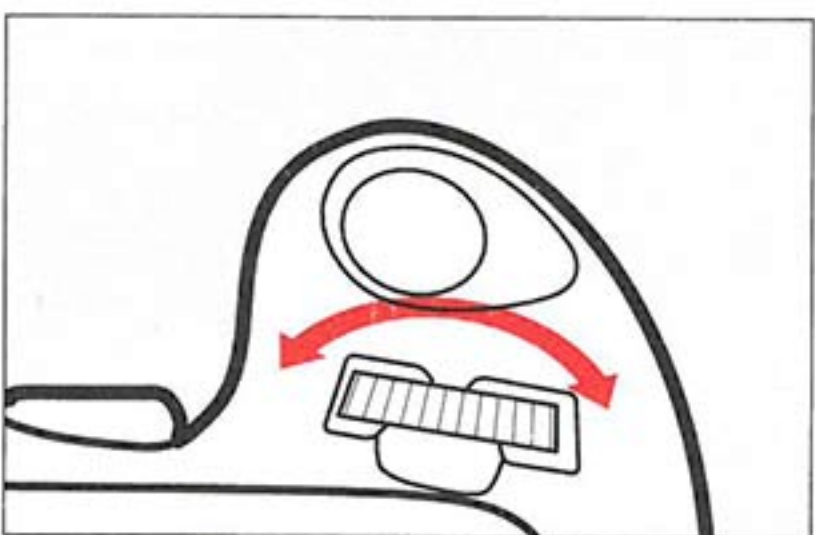
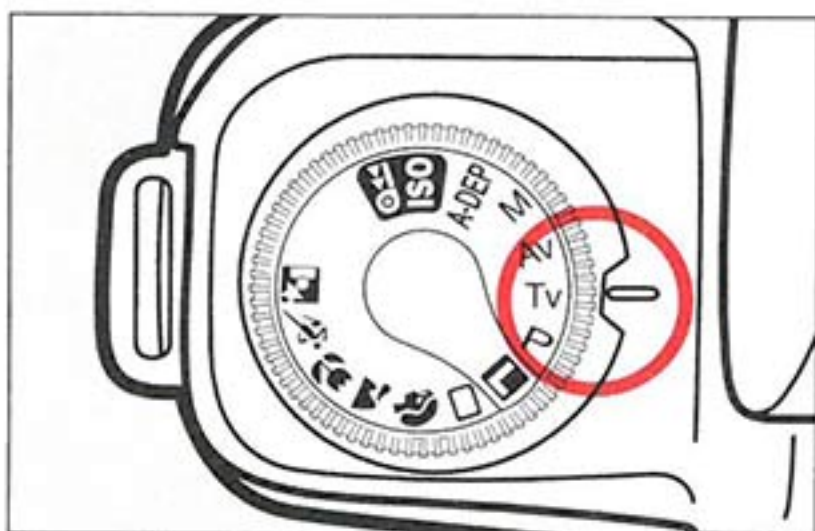
Tv シャッター速度を決めて撮る



速いシャッター速度



遅いシャッター速度



シャッター速度をセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが絞り数値を自動的にセットします。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると動いているものがあたかも止まっているような写真を撮ることができます。シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。



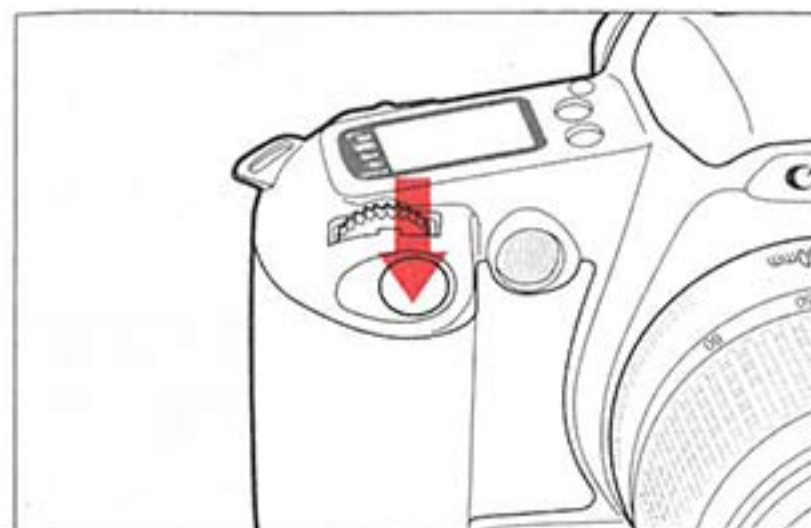
シャッター速度を1/15秒にセットすると、テレビ画面に映っているものをきれいに写すことができます。

- テレビ画面を写すときはカメラが動かないよう、三脚を使用してください。

1 モードダイヤルをTvにします。

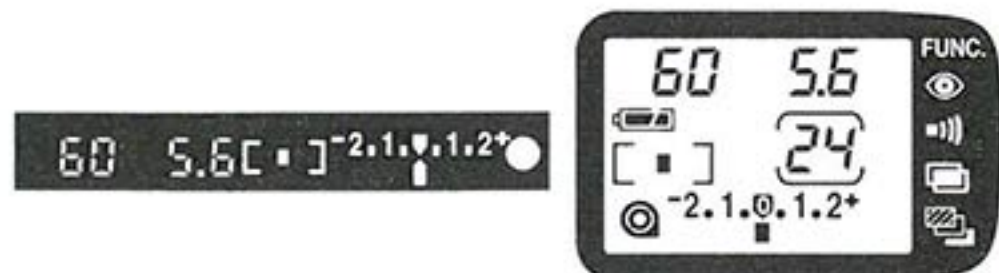
2 電子ダイヤルを回して希望するシャッター速度をセットします。

IV 色々な写真を撮ってみましょう



3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。



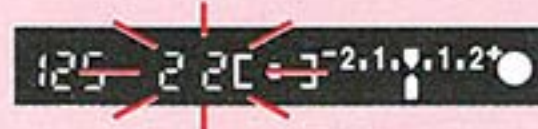
4 絞り数値を確認して撮影します。



- 使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径絞り）が点滅したときは、被写体が暗すぎる場合です。点滅が止まるまで電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。



- 使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径絞り）が点滅したときは、被写体が明るすぎる場合です。点滅が止まるまで電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。



シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段毎に設定することができます。2000から2までは分数の分母を表しています。例えば125は1/125秒を表しています。また0"7は0.7秒を表し、15"は15秒を表しています。

2000 1500 1000 750 500 350 250 180 125 90 60
45 30 20 15 10 8 6 4 3 2 0"7 1" 1"5 2" 3" 4" 6"
8" 10" 15" 20" 30"

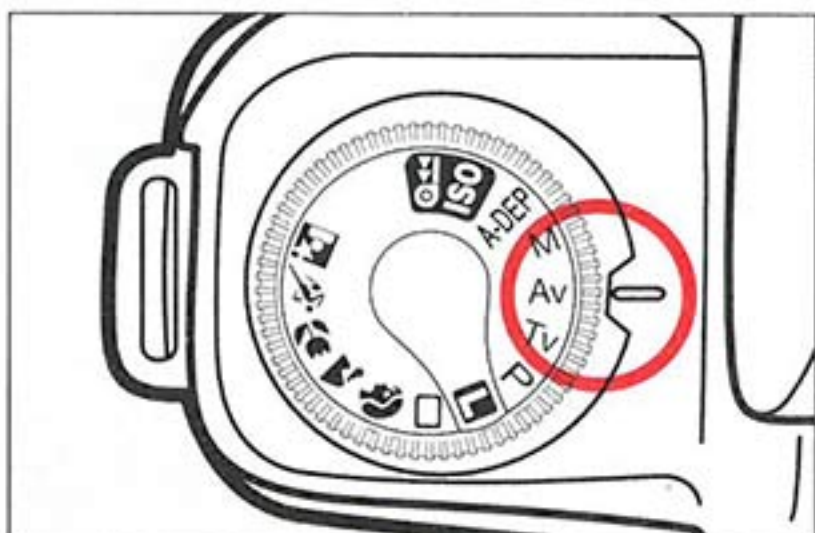
Av 絞り数値を決めて撮る



小さい絞り数値



大きい絞り数値



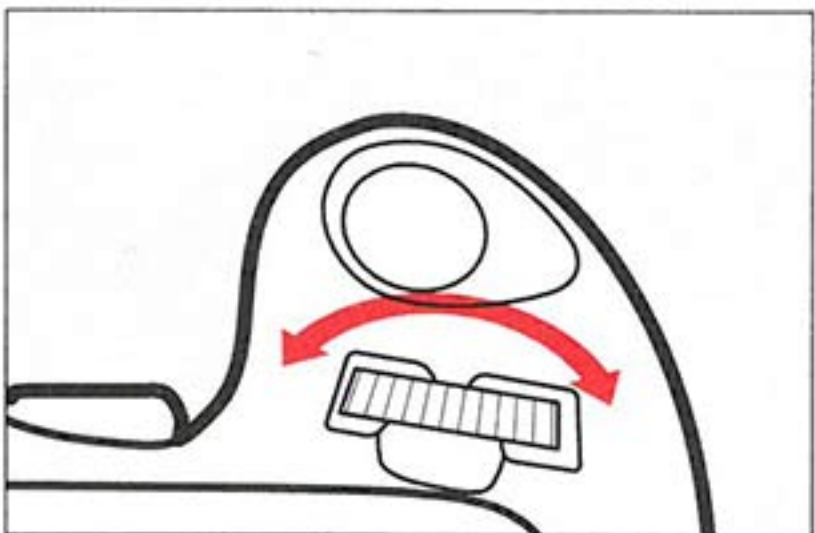
絞り数値をセットすると、被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的にセットします。これを絞り優先AEといいます。

絞り数値を小さくすると、背景をぼかした美しいポートレート写真が撮れます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。

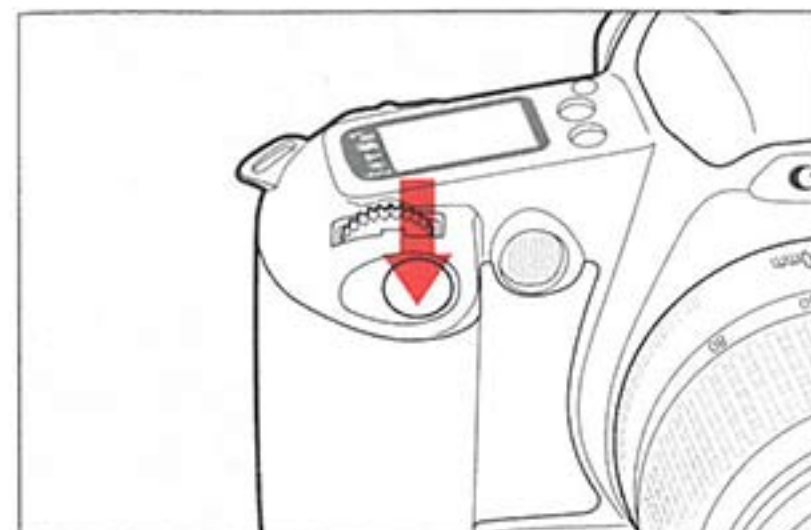
絞り数値を大きくすると、奥行きのある風景などは手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る範囲が深くなります。

1 モードダイヤルをAv にします。

2 電子ダイヤルを回して希望する絞り数値をセットします。

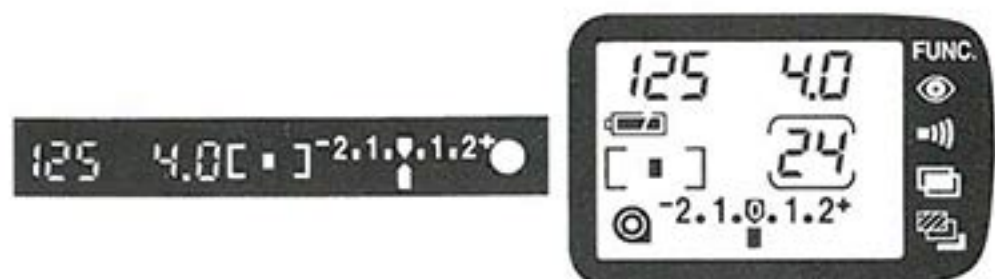


IV 色々な写真を撮ってみましょう



3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。



4 シャッター速度を確認して撮影します。



- シャッター速度の30"が点滅したときは、選んだ絞り数値に対して被写体が暗すぎる場合です。点滅が止まるまで電子ダイヤルを回して絞り数値を小さくしてください。



- シャッター速度の2000が点滅したときは、選んだ絞り数値に対して被写体が明るすぎる場合です。点滅が止まるまで電子ダイヤルを回して絞り数値を大きくしてください。



絞り数値の表示

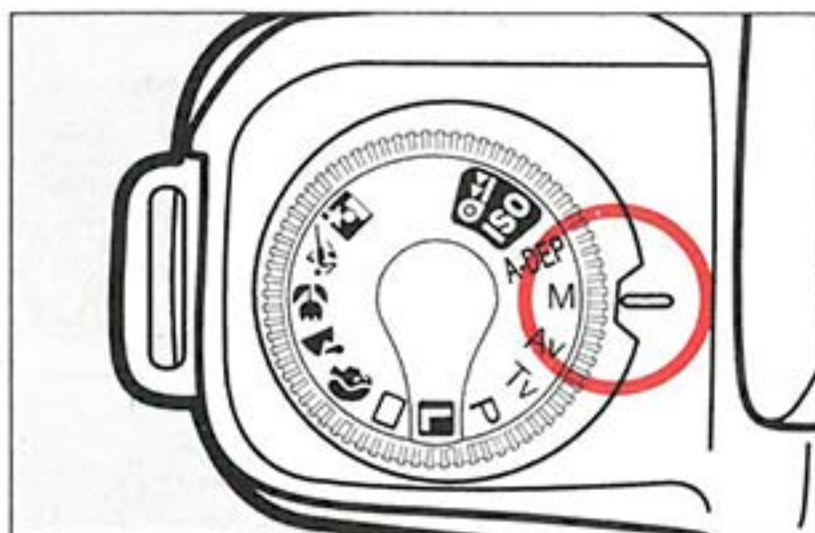
絞り数値は1/2段毎に設定することができます。数字が大きくなるほどレンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値の範囲はレンズによって異なります。

1.0 1.2 1.4 1.8 2.0 2.5 2.8 3.5 4.0 4.5 5.6 6.7 8.0 9.5
11 13 16 19 22 27 32 38 45 54 64

- カメラにレンズがついていないときは「00」を表示します。

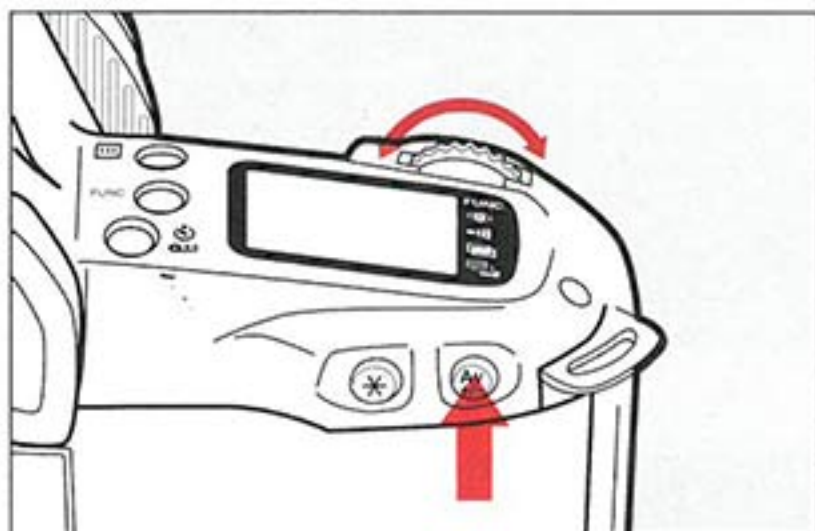
M 自由に露出を決めて撮る

カメラまかせでなく自分でシャッター速度や絞り数値を決めて、表現を工夫した写真を撮ることができます。シャッター速度と絞り数値の適正な組み合わせは、露出レベル目盛と露出レベルマークで確認します。



1 モードダイヤルを**M**にします。

2 電子ダイヤルを回してシャッター速度をセットします。



3 手動絞り数値セットボタンを押しながら電子ダイヤルを回して絞り数値をセットします。

4 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルおよびファインダー内の露出レベルマークで露出を確認します。

5 露出レベルマークに従って露出を調整します。

適正露出： 露出を決定するときの基準です。

露出オーバー： シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくして（絞りを閉じて）調整します。

露出アンダー： シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくして（絞りを開いて）調整します。

6 撮影します。

適正露出 -2.1.0.1.2+

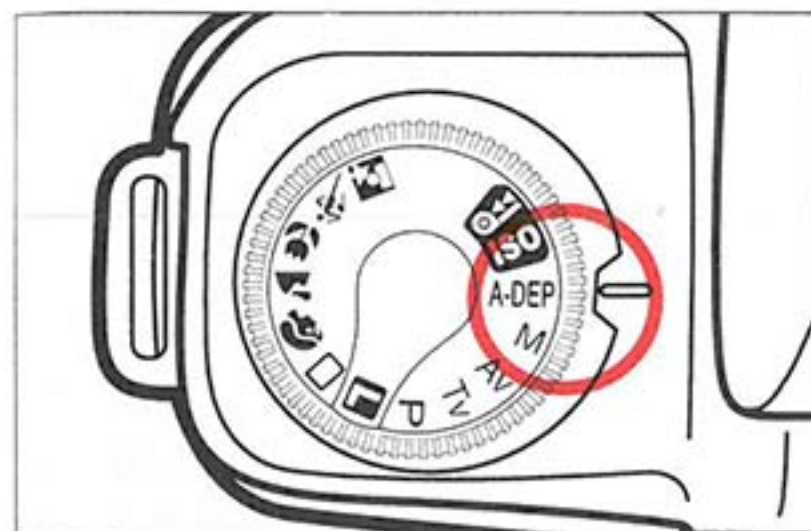
露出オーバー -2.1.0.1.2+

露出アンダー -2.1.0.1.2+

A-DEP 近くから遠くまでピントが合った写真を撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な写真を撮ることができます。

3つのAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。



1 モードダイヤルを**A-DEP**にします。

2 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値およびピントが合ったAFフレームマークが表示されます。表示されたAFフレームマークに重なっている被写体から被写体までの間がピントが合う範囲です。



3 シャッター速度と絞り数値を確認して撮影します。

この作例の場合、左のAFフレームに重なっている左奥の被写体から、右のAFフレームに重なっている右手前の被写体の間が鮮明に写る範囲になります。



- 絞り数値が点滅するとき露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- シャッター速度や絞り数値を自由に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることもあるので、撮影に際してはカメラをしっかり構えるか三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときはPでの撮影と同じ結果になります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが **MF**（または**M**）になっていると**A-DEP**撮影できません。

ストロボを使って撮る

クリエイティブゾーンでは、明るさに関係なく、必要なときにいつでもストロボ撮影ができます。内蔵ストロボを利用する場合も、EOS専用の外付けストロボを利用する場合も、基本操作は通常のAE撮影と同じです。

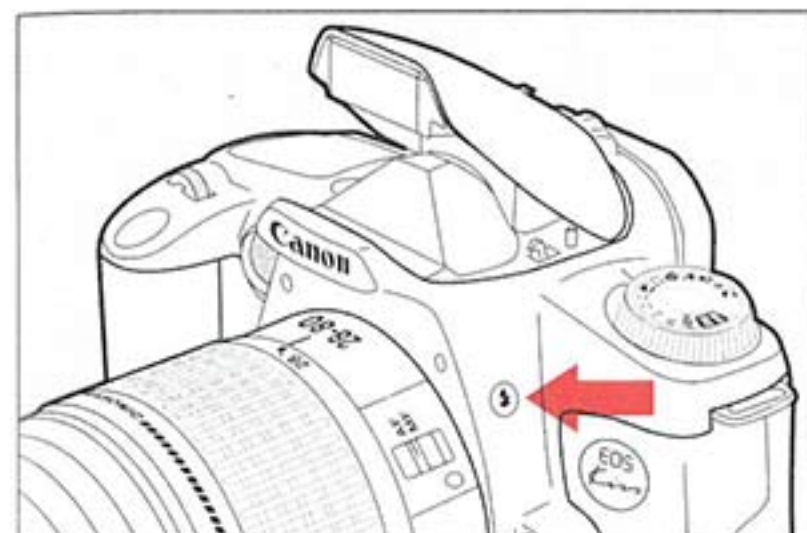
クリエイティブゾーンのストロボ撮影では、通常のAE撮影と同じ感覚で、絞り数値やシャッター速度(最高同調速度以下)の設定を行うことができます。ストロボ光の露出は、常にその時の絞り値を基準にした、AFフレーム連動・主被写体重視の3分割TTL調光で自動制御されます。

- カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときは**P**を選択します。
シャッター速度と絞り数値は、**□**全自動と同様に自動的にきまります。主被写体重視のストロボ撮影となります。
- 任意の絞り数値を設定したいときは、**Av**を選択します。
暗い場所では、主被写体も背景も適正露出の自動スローシンクロ撮影ができます。主被写体は設定した絞り値基準の自動調光で、また背景は絞り優先AE・カメラの測光で決まるシャッター速度との組み合わせで適正露出になります。
 - 自動スローシンクロ撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
- 任意のシャッター速度を設定したいときは、**Tv**を選択します。
設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出になる絞り値が自動セットされ、その絞り値基準の自動調光撮影となります。
 - 1/90秒よりも高速のシャッター速度を設定した場合は、自動的に1/90秒に再設定された撮影となります。
- 絞り値もシャッター速度も任意に設定したいときは**M**を選択します。
背景の露出はマニュアル露出で決まります。主被写体は、マニュアルセットした絞り値基準の自動調光で適正露出となります。

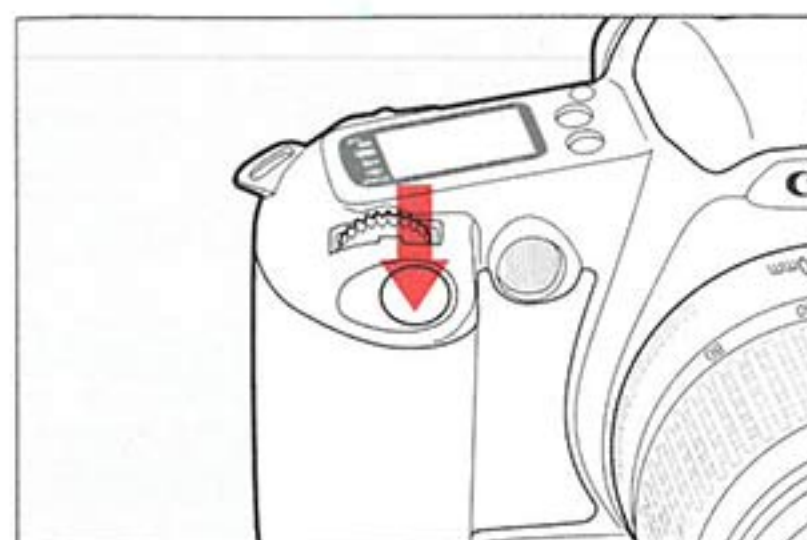


DEPのストロボ撮影は、Pによるストロボ撮影と同じ結果になります。

IV 色々な写真を撮ってみましょう



- 1 ストロボボタンを押します。
 - 押すとストロボが上がります。
 - ストロボを収納するときは手で押し下げます。



- 2 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。
- 3 ファインダー内に  が点灯しているのを確認して撮影します。

 90 5.6 [] -2.1  1.2 



赤目緩和機能のセット

赤目緩和機能をセットするとストロボ撮影で赤目が出やすいとき、赤目緩和ランプがついて赤目現象を起こりにくくします。
赤目緩和機能のセット方法は22ページを参照してください。

ストロボの調光連動距離範囲

(EF28 - 80mm F3.5 - 5.6を使用した場合)

ISO	28 mm		80 mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1~4.8m	1~3.4m	1~3m	1~2.1m
400	1.2~9.6m	1.5~6.8m	1~6m	1.5~4.3m

ストロボ撮影時における露出表示の確認

撮影モード	警告表示	意味	備考
Tv (シャッター優先AE)	使用レンズの最大絞り数値が点滅する。	背景が露出オーバーになります。	主被写体は適正露出です。
	使用レンズの最小絞り数値が点滅する。	背景が露出アンダーになります。	
Av (絞り優先AE)	シャッター速度1/90秒が点滅する。	背景が露出オーバーになります。	主被写体は適正露出です。 絞り数値を変えるとシャッター速度が点灯に変わることがあります。
	シャッター速度30"が点滅する。	背景が露出アンダーになります。	



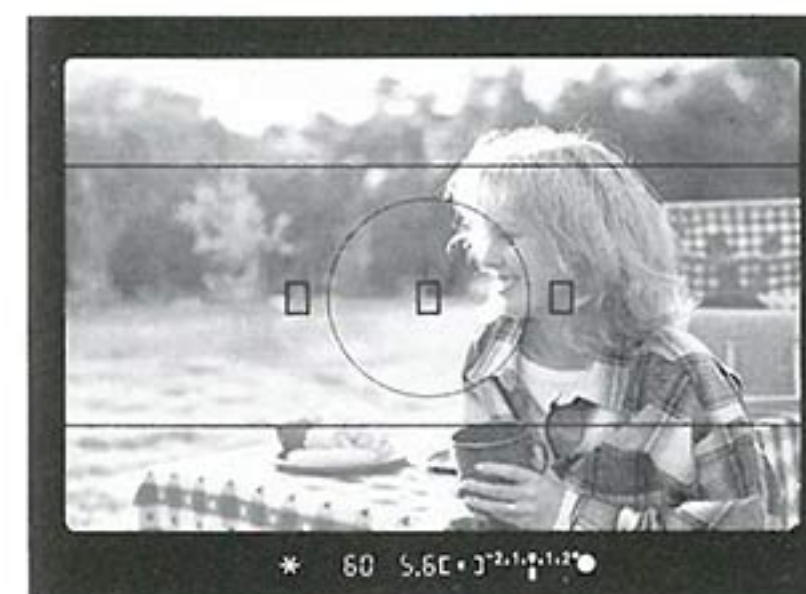
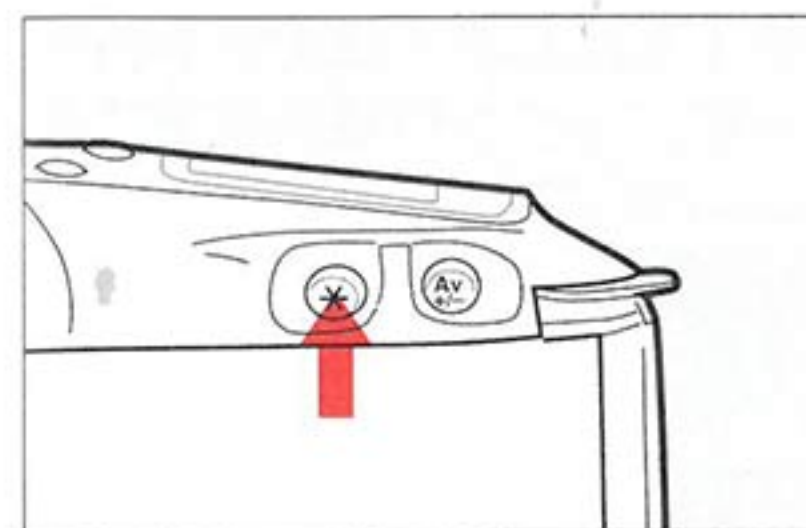
- ストロボ撮影は被写体から1m以上離れてください。
1m未満の近距離からストロボ撮影すると画面の一部が欠け（ケラレ）て暗い写真になります。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラレてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは必ずレンズからフードを外してください。
- 次のレンズを使用すると内蔵ストロボの光がケラレることがあります。これらのレンズでストロボを使用するときは、EOS専用外付けストロボをおすすめします。
 - EF17 - 35mm F2.8L USM、EF28 - 70mm F2.8L USMなど大口径レンズ。
 - EF300mm F2.8L USM、EF600mm F4L USMなどの超望遠レンズ。
- 内蔵ストロボとEOS専用外付けストロボを一緒に使用することはできません。
- アクセサリシューにEOS専用外付けストロボなどを取り付けると内蔵ストロボは作動しません。
- EOS専用外付けストロボを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。

部分測光・AEロック撮影

スポットライトで照明されたステージのように、被写体と背景とのコントラスト（明暗差）が極端に強いと、構図によっては写真が明るく写りすぎたり暗く写りすぎたりします。そのようなときは露出を決めた後で構図を変えて撮影するAEロック撮影機能に切り換えると目的の部分をきれいに写すことができます。



部分測光範囲マーク

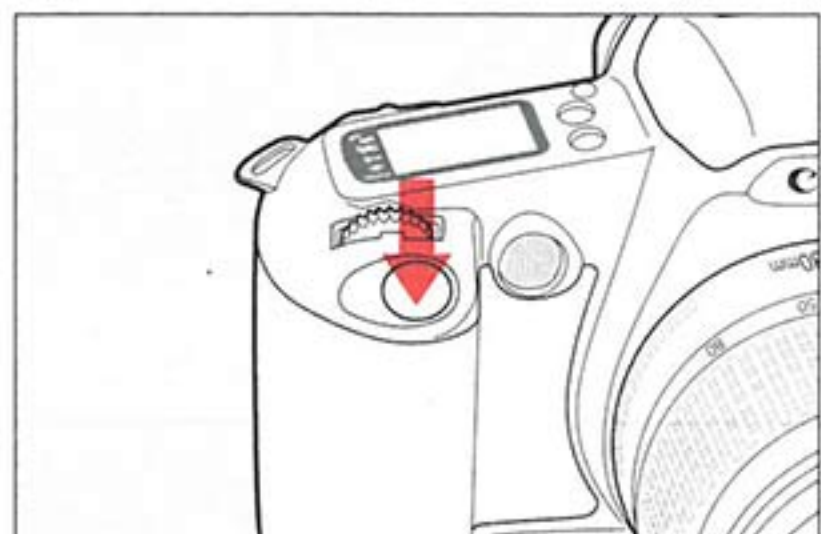


- モードダイヤルをクリエイティブゾーンにセットします。
- 露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。
 - 表示パネルおよびファインダー内に露出値が表示されます。
- 適正な明るさにしたい被写体に部分測光範囲マークを合わせAEロックボタン（*）を押します。
 - ファインダー内にAEロック表示（*）が表示され露出値が固定（AEロック）されます。AEロックボタンから指を離してもタイマーの働きで露出値は約4秒間表示されています。
 - AEロックボタンを押し直す度に、そのときの露出値をAEロックします。
 - AEロック表示が表示されてから4秒間経過するかモードダイヤルを操作するとAEロックは解除されます。
 - モードダイヤルのMで撮影する（→42ページ）時は、自分で決めた露出値と部分測光した被写体の明るさとの差が露出レベルマークで表示されます。
- 構図を決め直し目的の被写体にピントを合わせて撮影します。

連続してAEロック撮影する場合は、AEロックボタン（*）を押しつづけながら、シャッターボタンを押してください。

露出の補正方法

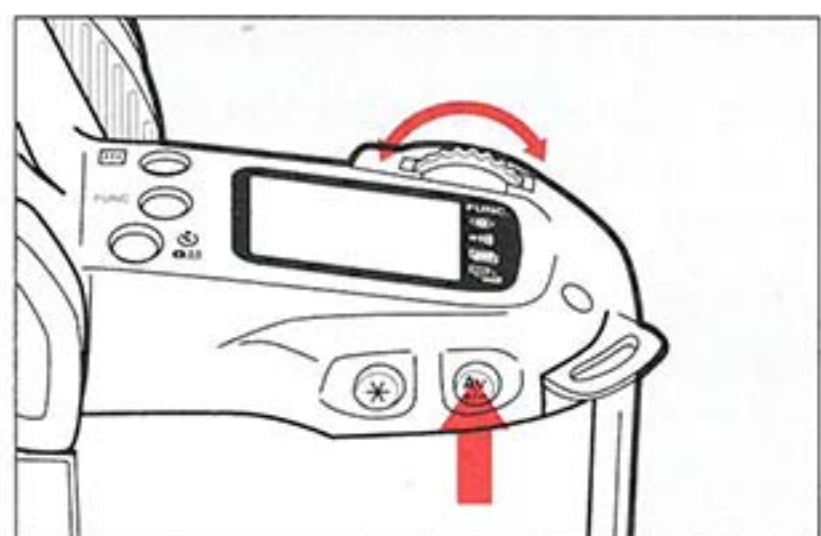
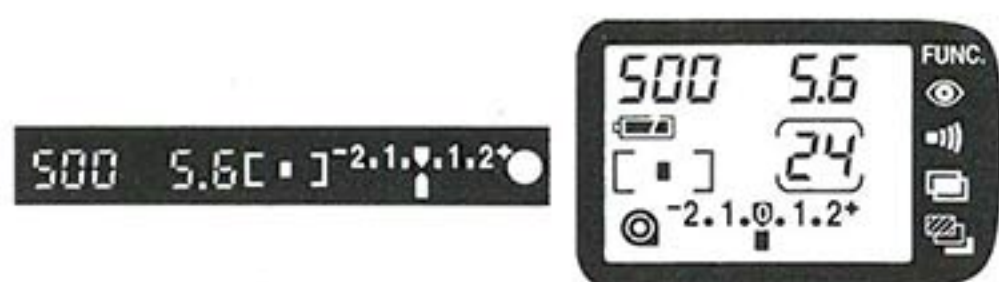
カメラが決めた標準的な露出を、意図的に変えることを露出補正といいます。撮影された写真を明るめにしたり、暗めにするときに利用します。補正は+2.0段から-2.0段の範囲で、1/2段毎に行うことができます。



1 モードダイヤルをM以外のクリエイティブゾーンにセットします。

2 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

- 表示パネルとファインダー内にシャッター速度と絞り数値が表示されます。



3 露出補正ボタンを押しながら電子ダイヤルを回して、露出レベルマークを露出レベル目盛の希望する補正量に合わせます。

- +側は露出量を増やし、-側は露出量を減らします。
- 露出補正を解除するときは、露出レベルマークを露出レベル目盛の0に合わせます。

4 撮影します。



- モードダイヤルをイメージゾーンにすると露出補正は解除されます。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値5.6が適正露出のとき、露出レベル目盛で1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを表示パネル上の数値で以下のように変更することと同じです。

	-1段	←	0	→	+1段
シャッター速度なら	250	←	125	→	60
絞り数値なら	8.0	←	5.6	→	4.0

AEB（自動露出ずらし）で撮る

設定した露出補正量の幅に従ってカメラが自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影することができます。これをAEB (Auto Exposure Bracketing) といいます。適正露出（露出補正が設定してあればその補正值）を中心に1/2段ステップで+2段から-2段の範囲でAEB撮影の補正量を設定することができます。撮影モードごとに設定されているフィルム巻き上げモード（65ページ「撮影機能の組み合わせ一覧」を参照）で適正露出、露出アンダー、露出オーバーの順で撮影します。微妙な光線状態を表現したり、スライド用カラーフィルム（リバーサルフィルム）を使用した撮影に特に有効です。



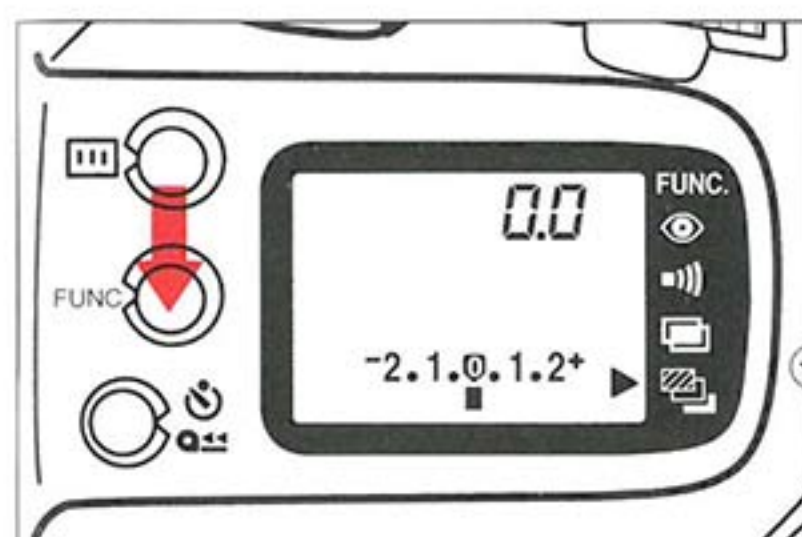
適正露出



露出アンダー (-0.5)

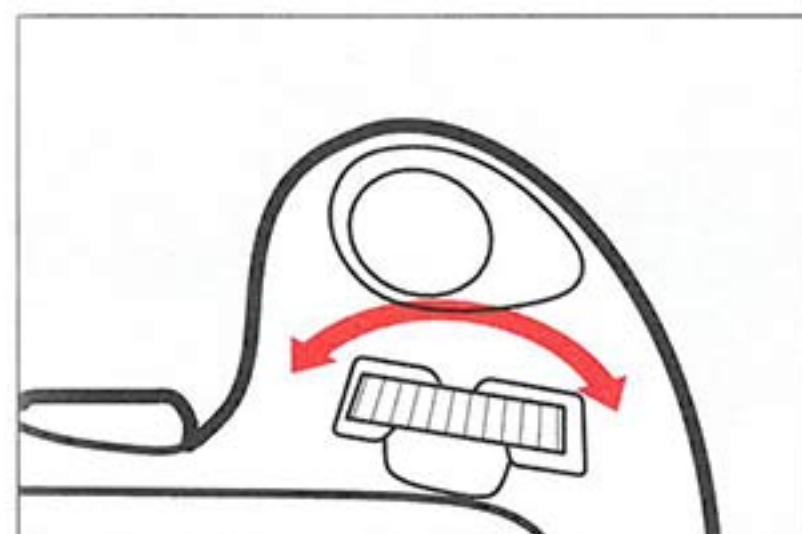


露出オーバー (+0.5)



1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにセットします。

2 ファンクションボタンを押して表示パネルのAEB撮影表示 (AEB icon) 横の▶を選択します。



3 電子ダイヤルを回して希望する露出補正量をセットします。

- 表示パネルに補正量が表示されます。例えば0.5を設定すると適正／露出アンダー (-0.5段) / 露出オーバー (+0.5段) の順で露出を変えます。
- AEBを解除するときは、露出の補正量を「0.0」に戻します。

- 2.1.0.1.2+ • ±1 段のAEBをセ
ットした状態
- 2.1.0.1.2+ • -1 段の露出補正
をした状態
- 2.1.0.1.2+ • -1.5 段の露出補
正をした状態
- 2.1.0.1.2+ • -2 段の露出補正
をした状態

AEBセットの時、露出表示の範囲を
越える露出補正を行うと、表示は左図
のようになりますが、AEB撮影と露
出補正は正常に作動します。

4 モードダイヤルを操作するか、露
出補正を行ってから4秒間経過す
ると設定は完了します。

5 撮影モードごとに設定されている
フィルム巻き上げモード（→65ペ
ージ「撮影機能の組み合わせ一覧」
を参照）に従って撮影します。

- 表示パネルとファインダーの露出値は
撮影順に補正された値を表示します。
- AEB撮影では、露出表示されている間、
表示パネルのAEB撮影表示横の▶およ
びドットが点滅します。

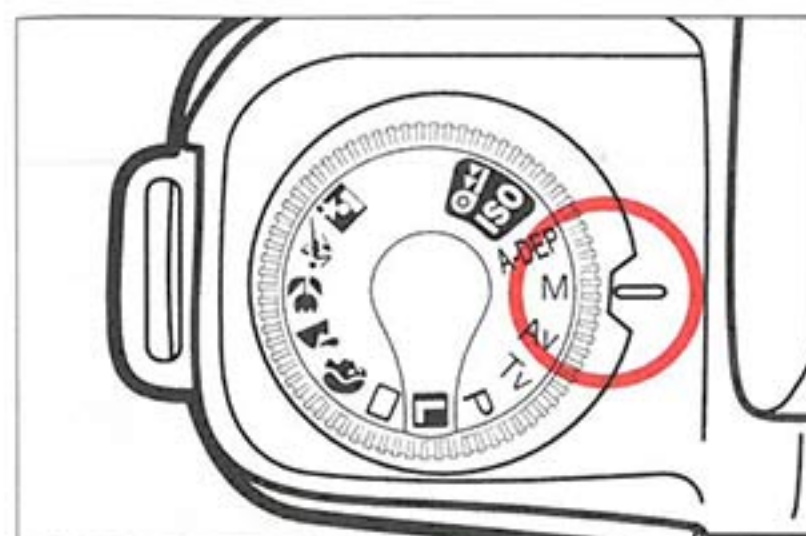
適正露出	-2.1.0.1.2+
露出アンダー . . .	-2.1.0.1.2+
露出オーバー . . .	-2.1.0.1.2+



- モードダイヤルをイメージゾーンにすると、AEB撮影は解除されます。
- 連続撮影でシャッターボタンを全押しし続けていると3コマ連続して撮影され
ますが、ファインダー内の露出補正量は表示されません。
- セルフタイマーを併用したときは10秒後に自動的に3コマ連続撮影されます。

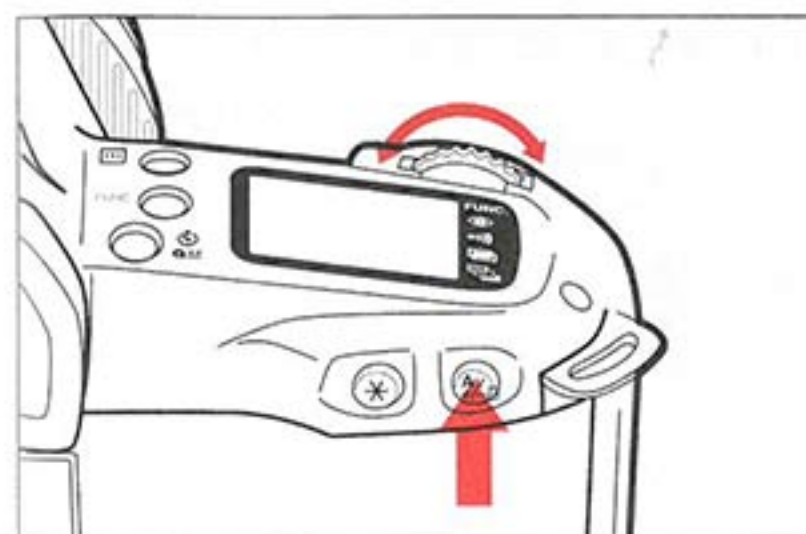
バルブ（長時間露出）撮影

バルブ撮影では、シャッターボタンを押している間シャッターが開いた
ままになります。シャッターボタンを離すとシャッターは閉じます。夜
景や花火の撮影のような長時間の露出が必要なときにご使用ください。
バルブ撮影ではカメラが動かないよう三脚を使用してカメラをしっかり
固定してください。別売のリモートスイッチRS-60E3のリリースロッ
ク機能を利用すると、バルブ撮影しやすくなります。

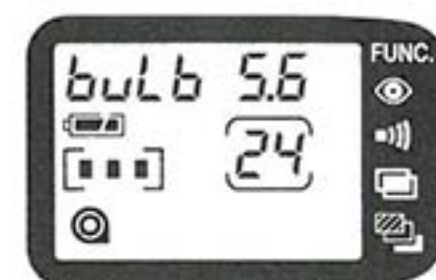


1 モードダイヤルをMにします。

2 電子ダイヤルでシャッター速度
を *bulb* (バルブ) にセットしま
す。30''の次が *bulb* です。

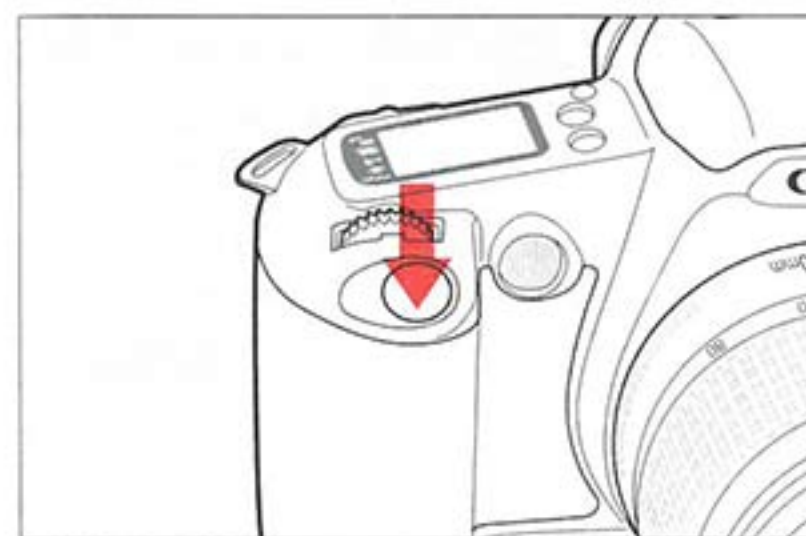


3 露出補正ボタンを押しながら電子
ダイヤルを回し、希望する絞り数
値をセットします。

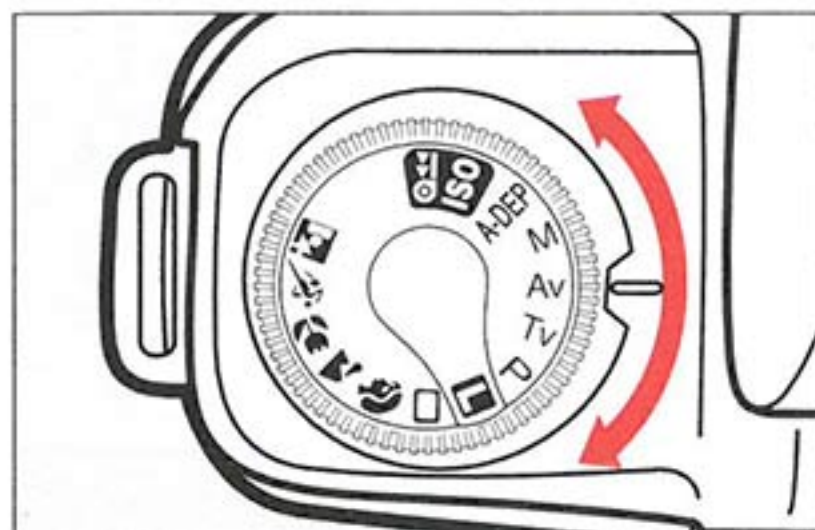


4 構図を決めて撮影します。シャッ
ターボタンを全押ししている間シャ
ッターは開いています。

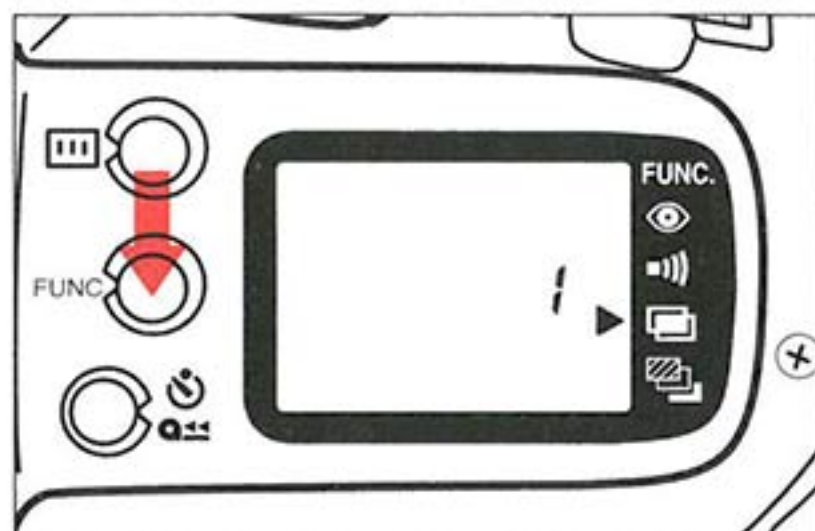
- バルブ撮影中は表示パネルに *bulb* が
点滅しています。
- 新品の電池を使用した場合、約6時間
のバルブ撮影ができます。



1コマのフィルムで2回以上シャッターを切る多重露出撮影で、特殊な表現の写真を撮ることができます。

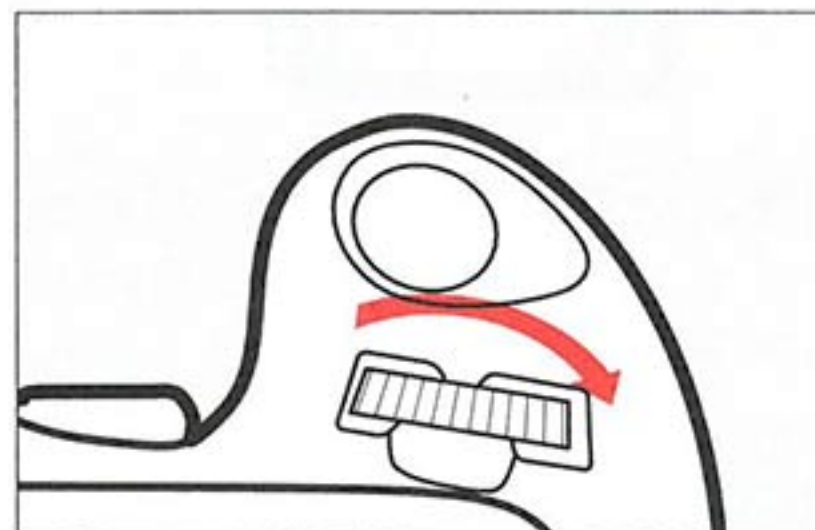


1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにセットします。



2 ファンクションボタンを押して、表示パネルの多重露出表示 () 横の▶を選択します。

- 表示パネルのフィルム枚数計の部分に「1」が表示されます。



3 電子ダイヤルを回して希望する多重露出回数をセットします。

- 多重露出の回数は表示パネルのフィルム枚数計の部分に表示されます。
- セットできる回数は9回までです。
- シャッターボタンを半押しするか6秒経過するとセットは完了します。
- 多重露出を解除するときは、多重露出の回数表示を1にします。

4 構図を決めて撮影します。

- 多重露出撮影で露出表示の出ている4秒タイマー中は表示パネルの多重露出表示横の▶が点滅します。
- セットした多重露出回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に1コマ巻き上げられます。同時に、多重露出のセットも解除されます。



- 1コマのフィルムに何回も露出を与える多重露出撮影では、露出値を最初に補正しておく必要があります。「露出の補正方法」もお読みください (→48ページ)。参考として以下に補正量の目安を示します。

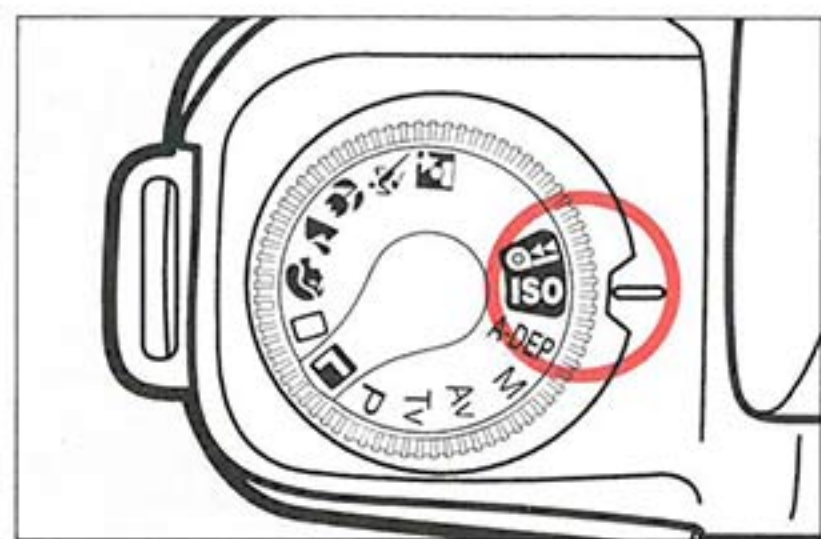
多重露出の回数	2回	3回	4回
補正量の目安	-1.0	-1.5	-2.0

この補正量はあくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わりますので、あらかじめ撮影データを求めておいてください。

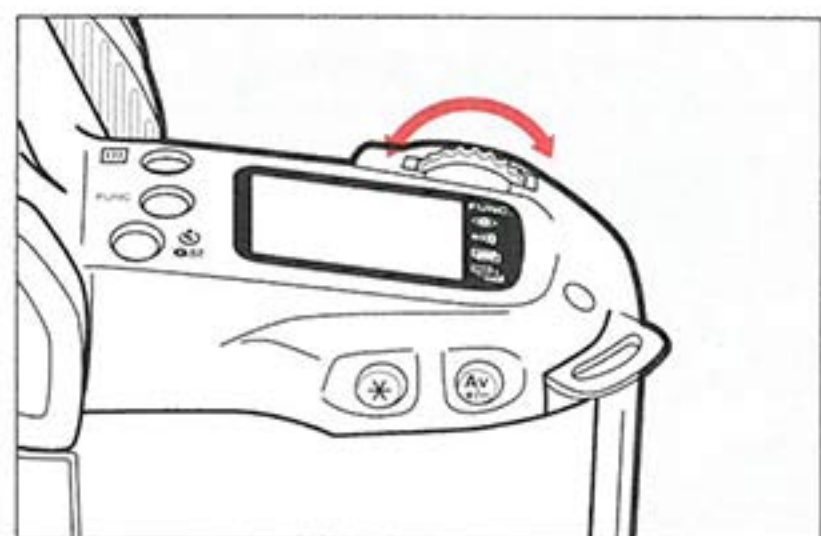
- モードダイヤルをイメージゾーンに合わせるだけで多重露出の解除を行うこともできます。
- バルブ撮影と多重露出を同時に設定することができます。

フィルム感度を変更する

DXマークのないフィルムを使用するときや、任意のフィルム感度（ISO値）をセットするときは、次の手順に従って手動でフィルムの感度をセットします。セットできるISO値の範囲は6～6400です。



- 1 モードダイヤルをISOにします。
 - 表示パネルにISOとフィルム感度を示す数字が表示されます。



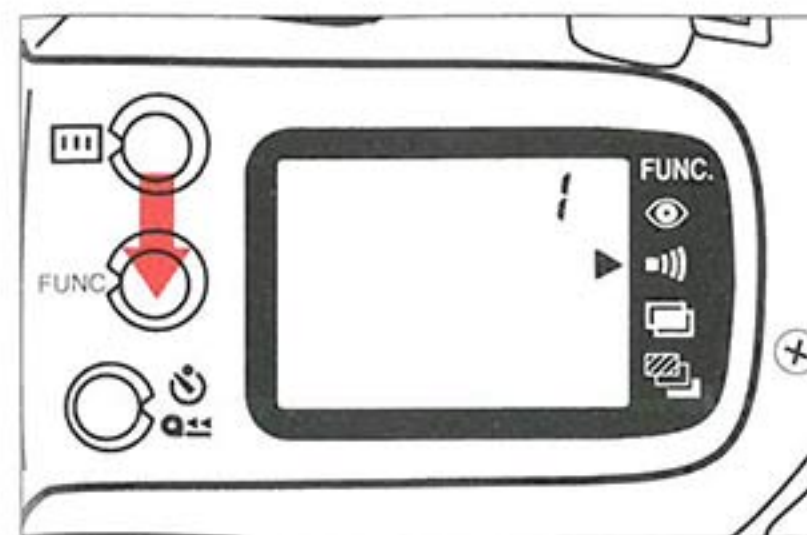
- 2 電子ダイヤルを回してフィルムの感度をセットします。
- 3 モードダイヤルのセットを戻します。



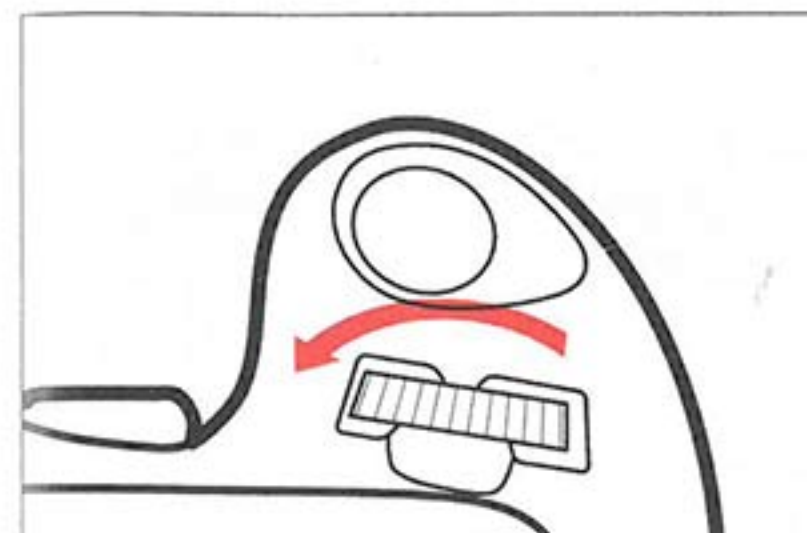
DXマーク付きのフィルムをカメラにセットするか、フィルム感度を変更しなおすまでは、それまでにセットされているフィルム感度がセットされています。

ピントが合ったときの電子音を消す

撮影場所によっては、ピントが合ったときの電子音が邪魔になることがあります。全ての撮影モードでこの電子音を鳴らないようにすることができます。



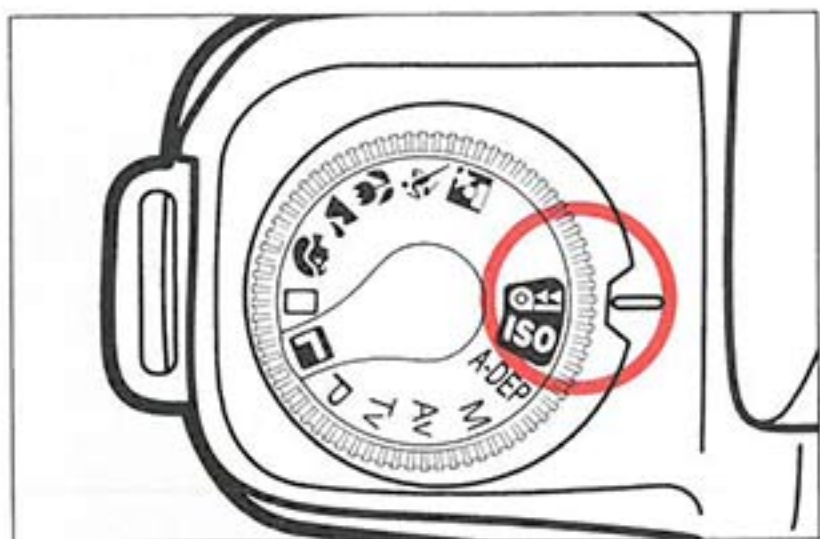
- 1 ファンクションボタンを押して、表示パネルの電子音表示（）横の▶を選択します。
 - 表示パネルのフィルム枚数計の部分に「1」が表示されます。



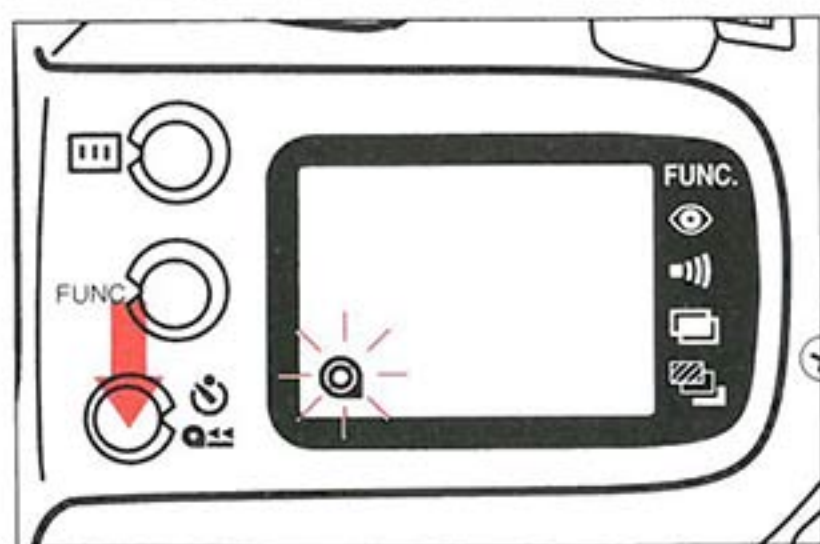
- 2 電子ダイヤルを回して表示パネルのフィルム枚数計に「0」を表示します。
 - 表示パネルの電子音表示（）横から▶が消えて、ピントがあったときの電子音はしなくなります。
 - 元に戻すときは、表示パネルのフィルム枚数計に「1」を表示します。
- 3 モードダイヤルを操作するか、表示パネルのフィルム枚数計に「0」を表示してから6秒間経過すると電子音の設定は完了します。

フィルムを途中で取り出す

フィルムを最後まで撮り終わる前にカメラから取り出すときは、次の方法でフィルムを巻き戻してから取り出します。

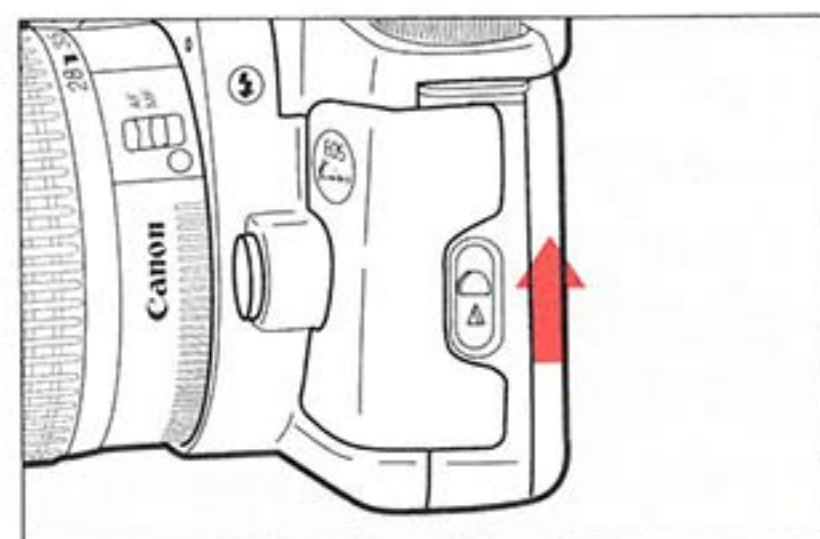


1 モードダイヤルを **A-DEP** にします。



2 フィルム巻き戻しボタン（セルフタイマーボタン）を1秒以上押し続けます。

- フィルムの巻き戻しが始まり、シャッターが切れるような音と同時に巻き戻しが終了し、表示パネルがフィルムマーク（●）だけの点滅表示になります。
- フィルムマーク（●）の点滅は約3秒で点灯に変わります。



3 背ぶたを開けてフィルムを取り出します。



撮影の途中で巻き戻し操作をせずにフィルムを取り出した後、続けて新しいフィルムをセットするとフィルムがパトローネに巻き取られてしまいます。一度背ぶたを閉じて、シャッターボタンを全押ししてから新しいフィルムをセットしてください。

V EXシリーズスピードライトを利用したE-TTL自動調光撮影

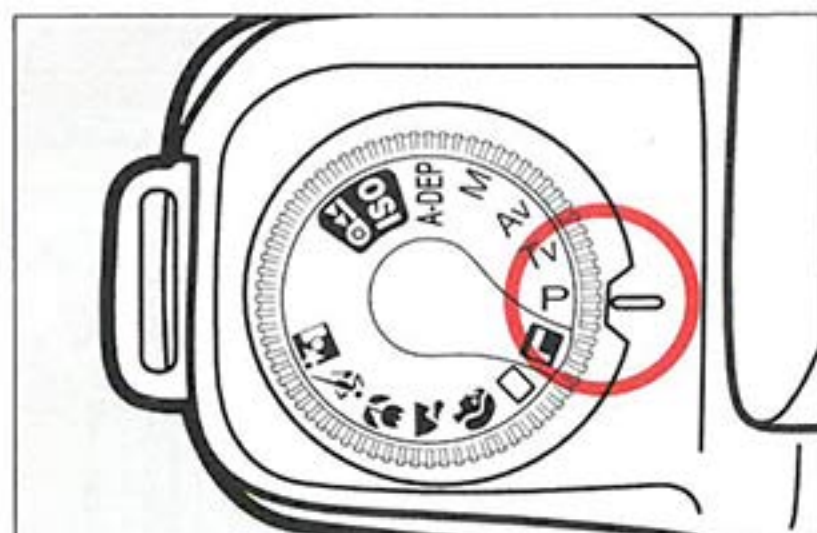
EOS専用外付けストロボ・キャノンEXシリーズスピードライト380EXや220EXを装着すると、内蔵ストロボ使用とおなじ感覚の簡単操作で、AF フレーム連動・E-TTL自動調光撮影ができます。大光量が必要な集合写真や、光を演出したポートレート撮影におすすめします。

E-TTL自動調光システムの特長

- (1) AFフレームに連動した、E-TTL調光（プリ発光・記憶式評価調光）により、ピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。
- (2) 日中シンクロ撮影から室内撮影まで、きわめて自然なストロボ撮影結果が、カメラまかせのオートで得られます。
- (3) 暗いところでカメラをAvモードにすると、自動スローシンクロ撮影ができます。主被写体も背景も共に適正露出の雰囲気の良い撮影結果がカメラまかせで得られます。
- (4) FE (Flash Exposure) ロック機能により、任意のところを適正露出にするストロボ光のAEロック撮影ができます。
- (5) 30秒から高速1/2000秒までの、すべてのシャッター速度に同調発光するハイスピードシンクロ（FP発光）撮影ができます。
- (6) クリエイティブゾーンでは、通常のAE撮影と同じ感覚で、絞り数値やシャッター速度（通常1/90秒以下）の設定を行うことができます。
- (7) 多灯アクセサリーを併用することにより、AFフレーム連動・TTL自動調光による多灯ストロボ撮影を、オートで行うことができます。



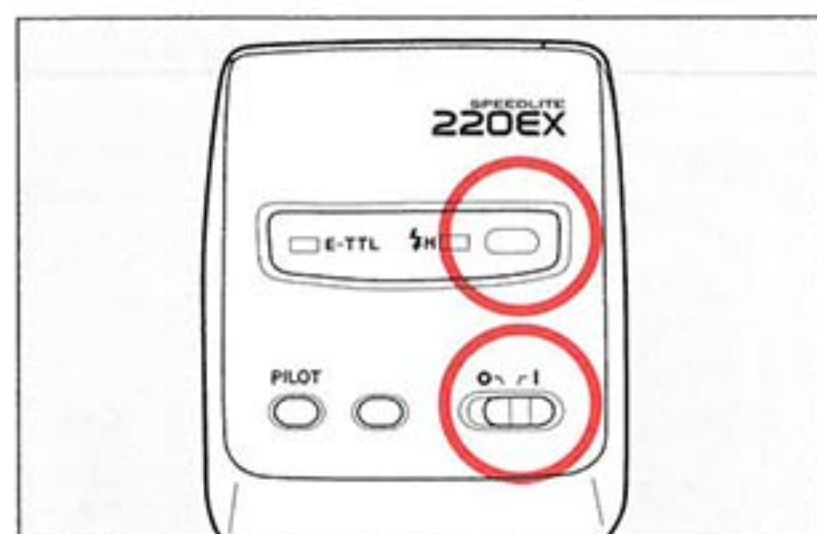
- AF撮影のストロボ露出は、常にその時の絞り値を基準にした、AFフレーム連動・主被写体重視のE-TTL調光で自動制御されます。
- 全自動、イメージゾーンでは、常時発光のストロボ撮影となります。
- カメラ本体の赤目緩和機能は、EOS専用外付けストロボ装着時にも働きます。



通常発光撮影

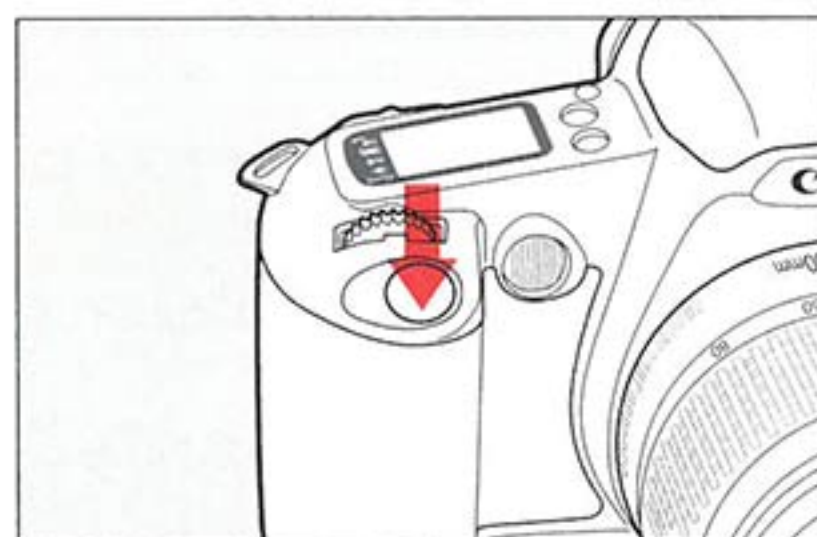
1 カメラのモードダイヤルをA-DEP以外にセットします。

- A-DEPでストロボ撮影するとP（プログラムAE）によるストロボ撮影と同じ結果になります。



2 220EXのメインスイッチを入れます。

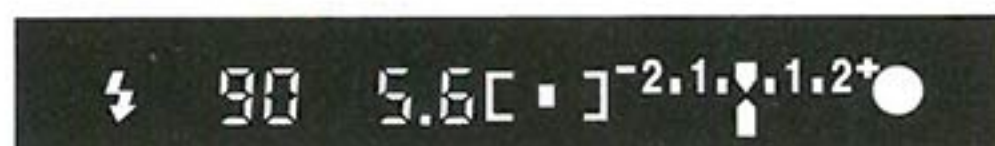
- ストロボのハイスピードシンクロ（FP発光）ランプが消灯していることを確認してください。点灯している場合はハイスピードシンクロ（FP発光）セットボタンを押してランプを消してください。



3 シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。



4 カメラのファインダー内の点灯とシャッター速度、絞り数値を確認します。



5 シャッターボタンを全押しして撮影します。

ハイスピードシンクロ撮影

スピードライトのハイスピードシンクロ（FP発光）スイッチをHにしておくと、シャッター速度が1/90秒より高速側に設定されても、自動的に全てのシャッター速度に同調したハイスピードシンクロ（FP発光）撮影が可能となります。ハイスピードシンクロ（FP発光）状態になるとカメラのファインダー内右にHが表示され、ハイスピードシンクロ（FP発光）であることを示します。



ハイスピードシンクロ（FP発光）は次のような状況のポートレート撮影で効果を発揮します。

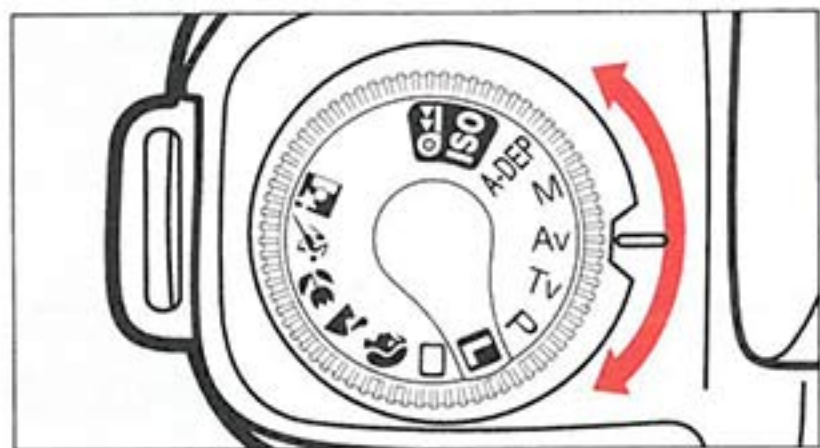
- 1 日中シンクロによるポートレート撮影で絞りを開いて背景をぼかす。
- 2 キャッチライトを入れる。
- 3 シャドー部に補助光を与える。



- ハイスピードシンクロ（FP発光）はクリエイティブゾーンに限り撮影可能です。イメージゾーンでは通常ストロボ撮影となります。
- ハイスピードシンクロ（FP発光）はストロボのG.N.（ガイドナンバー）が下がります。自然光の光量が十分でないときのハイスピードシンクロ（FP発光）撮影は露出がアンダーになりますのでご注意ください。

FEロック撮影

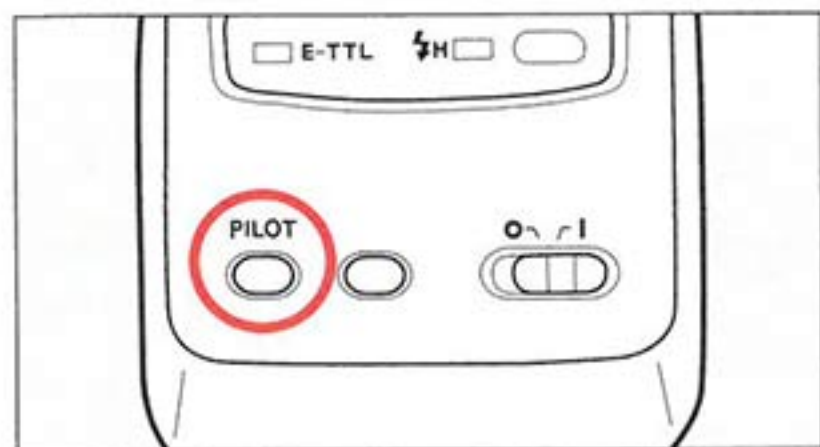
FEロック撮影はファインダー上の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。FEロック撮影はクリエイティブゾーンにおいてのみ機能し、AEロックボタンがFE (Flash Exposure) ロックボタンとなります。



1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにセットします。

2 スピードライトの充電完了ランプの点灯を確認します。

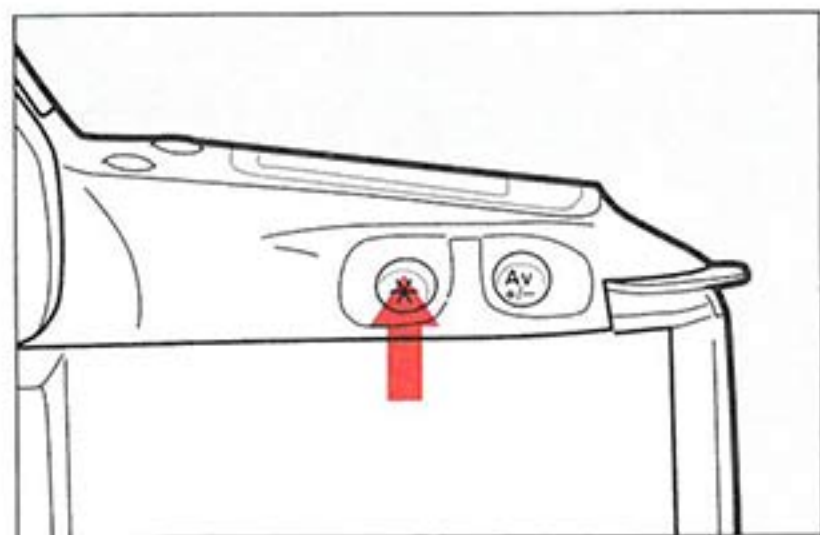
- 発光モードは、通常発光・ハイスピードシンクロ (FP発光) のどちらでも構いません。それぞれの発光モードに対応したFEロックを行なうことができます。



3 シャッターボタンを半押しし、露出を合わせたい被写体にピントを合わせます、そのままシャッターボタン半押しを維持します。

4 部分測光範囲マークを被写体にに合わせてFEロックボタンを押します。

- ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶します。
- ファインダー内に*と $\frac{1}{2}$ あるいは $\frac{1}{4}$ が点灯します。
- ファインダー内の $\frac{1}{2}$ が点滅した場合は主被写体がストロボ調光連動距離範囲外にあり、露出不足になります。FEロックボタンを押したときに $\frac{1}{2}$ が点滅しない距離まで近づいて撮影してください。
- FEロックボタンから指を離してもタイマーの働きで16秒間は適正な露光量が記憶されています。



5 シャッターボタンを全押しして撮影します。



EXシリーズストロボ以外のEOS専用スピードライトとの組み合わせ
このカメラとEOS専用スピードライト (540EZ、430EZ、420EZ、300EZなど多灯アクセサリー併用も含む) を組み合わせると、3分割A-TTL/TTL自動調光で通常の自動撮影と同じ感覚で簡単にストロボ撮影することができます。

VI 資料

皆様にカメラを快適に使っていただくために、この「資料」を設けました。写真の基本的な用語の解説や撮影のときに参考になるようなカメラの機能情報、アクセサリの紹介などを行っています。

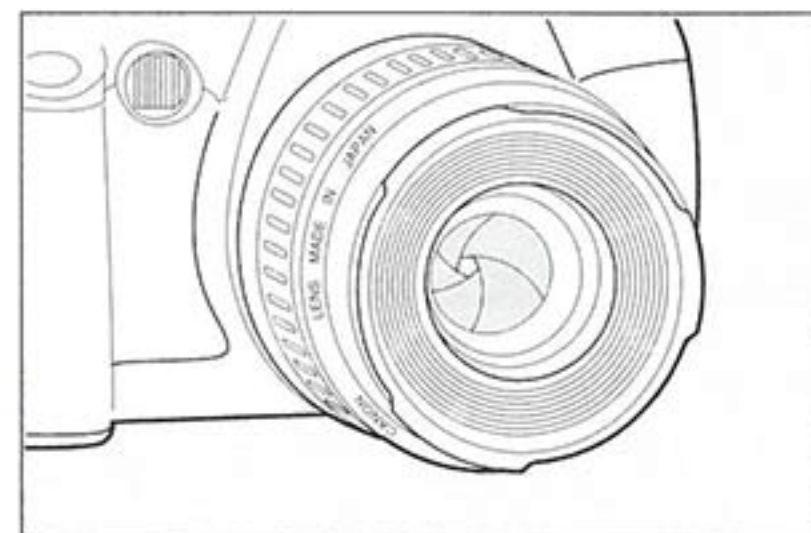
写真の基本用語解説

シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムに当たる光りの量を、シャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度と言います。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示されるシャッター速度は、2000 (1/2000秒) ~ 30" (30秒)、buLb (バルブ) となっています。

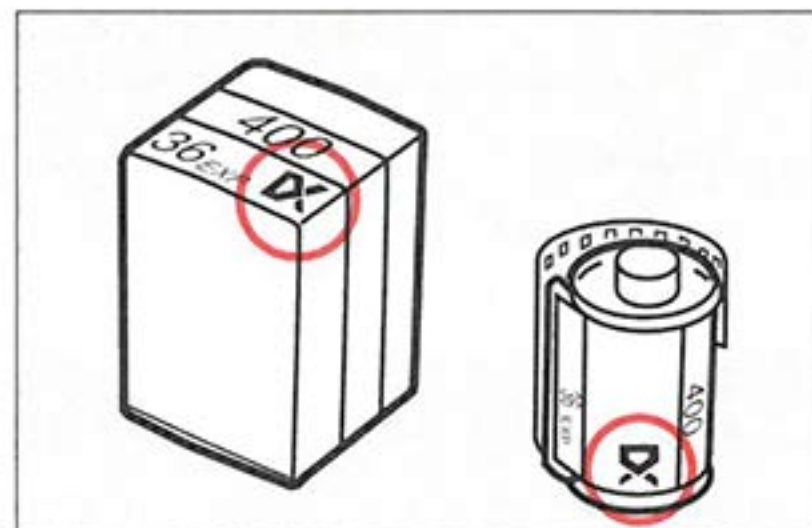
絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、フィルムに当たる光りの量を調整します。この開口部の大きさのことを絞り数値と言います。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、1.0~32となっています。



フィルム感度 (ISO値)

フィルム感度は、フィルムがどのくらいの弱い光りにまで感応するかをISO (International Standards Organization / 国際標準化機構) で定めた数値で表しています。このカメラの表示パネルに表示されるフィルム感度は、6~6400となっています。ISO値が大きくなるほど光りに対する感度は高くなります。フィルムの感度が高いほど撮影に必要な光りの量は少なくなり、暗いところでも写真が写るようになります。



被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度と言い、絞り数値を大きくするほど（絞りを閉じる／小口径絞り）ピントの合っている範囲が前後に広くなり、これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントの合う範囲が狭くなり、これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

- (1) 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。
…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
- (2) 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。
…望遠レンズより広角レンズの方が被写界深度は深くなる。
- (3) 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
- (4) 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして奥側に深く手前側に浅い。

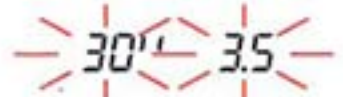
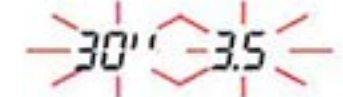


「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の表を参考にしてカメラをチェックしてみてください。それでも症状に変化がなければ、カメラを最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください（裏表紙にサービスセンターの一覧があります）。

症 状	原 因	解決方法	参照頁
1. 表示パネルに表示がない	電池が消耗していませんか？	電池を新しいものと交換してください。	14
	電池が逆向きに入っていないませんか？	電池を正しい向きに入れなおしてください。	14
2. シャッターが切れない	フィルムは正しくセットされていますか？（表示パネルにフィルム枚数が表示されていますか？）	フィルムを正しく入れなおしてください。	18
	巻き戻されたフィルムがカメラに入っていないませんか？（表示パネルのフィルム枚数表示が空白になっていませんか？）	フィルムを新しいフィルムと交換してください。	18
	ピントは合っていますか？（ファインダー内の合焦ランプが点滅していませんか？）	もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせなおしてください。それでもピントが合わないときはレンズのフォーカスモードスイッチを MF（または M）にセットし、レンズの手動フォーカスリングを回して、ピントを合わせます。	16
3. 写真がボケて写っている	レンズのフォーカスモードスイッチが MF（または M）になっていませんか？	レンズのフォーカスモードスイッチを AF（AUTOFOCUS: 自動）になおしてください。	16
	シャッターボタンを押すときに手ぶれを起こしていませんか？	手ぶれを起こさないようにシャッターボタンを静かに押してください。	17
4. 表示パネルに「  」のみが点滅あるいは点灯している	電池の容量が極端に少なくなっています。	電池を新しいものと交換して、電池マークが点灯すれば正常に撮影できます。	15
	なんらかの理由でカメラが誤動作していると考えられます。	シャッターボタンを半押しして、カメラが撮影準備状態に戻れば正常に撮影できます。 * 以上の操作を何度しても「  」が消えないときはカメラの故障です。カメラを最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。	15 裏表紙
5. プリントの上下が黒くなり、人の頭が切れてしまう。	パノラマ撮影のまま標準サイズのつもりで撮影していませんか？	標準撮影のときはパノラマ・標準サイズ切り換えレバーを標準サイズにしてください。	32

露出表示が点滅したときは

モードダイヤルのマーク	表示警告例（点滅）	意 味	備 考
P	 シャッター速度30"と、使用レンズの開放絞り数値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	 シャッター速度2000と、使用レンズの最大絞り数値	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv	 使用レンズの最小絞り数値	露出アンダーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。
	 使用レンズの最大絞り数値	露出オーバーになります。	電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。
Av	 シャッター速度30"	露出アンダーになります。	電子ダイヤルで絞り数値を小さくしてください。
	 シャッター速度2000	露出オーバーになります。	電子ダイヤルで絞り数値を大きくしてください。
A-DEP	 セットされた絞り数値	希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) ズームレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
	 シャッター速度30"と、使用レンズの最小絞り数値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	 シャッター速度2000と、使用レンズの最大絞り数値	被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。

撮影機能の組み合わせ一覧

モードダイヤルのマーク	オートフォーカス		AFフレーム選択		フィルム巻き上げ		測光方式			内蔵ストロボ	
	ワンショット	AIフォーカス	自動	手動	一枚撮り	連続撮影	評価測光	中央部重点平均測光	部分測光	自動	手動
		●	●		●		●			●	
	●		●			●	●			●	
	●		●		●		●				—
	●		●		●		●			●	
		●	●			●	●				—
	●		●		●		●			●	
P		●	○	○		●	●		(●)*		●
Tv		●	○	○		●	●		(●)*		●
Av		●	○	○		●	●		(●)*		●
M		●	○	○		●		●	(●)*		●
A-DEP	●		●		●		●		(●)*		●

●：自動セット、○：選択可能 ※部分測光ボタンが押されているときのみ部分測光になります。

ワンショット： 被写体にピントが合うと同時に露出が決まります。ピントが合うまでシャッターは切れません。

AIフォーカス： ワンショットオートフォーカスでとらえた被写体が連続して移動している場合、その被写体の移動量を検知して、自動的にAIサーボオートフォーカスに切り換わります。

AIサーボ： 連続的に移動している被写体にピントを合わせ続けます。シャッターが切れる直前に露出が決まります。

連続撮影： シャッターボタンを押している間、1秒間に約1コマの速さで連続して撮影します。

評価測光： ファインダーでとらえた被写体と背景の明るさの違いや被写体の大きさを考慮して適正な露出を決めます。

部分測光： ファインダー内の部分測光範囲マーク内のみで適正な露出を決めます。

中央部重点平均測光： ファインダー中央部に重点を置いて平均測光します。

AFモードとフィルム巻き上げの関係

フィルム巻き上げ	ワンショット	AIサーボ
一枚撮り	ピント合わせが終わるまでは撮影できない。ピントが合うと同時にピントを固定する。 評価測光で露出を固定する（撮影前に露出の値を記憶）。	被写体の動きに合わせてピントを合わせ続ける。露出はシャッターを切る瞬間に決定される。
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影となる（1秒間に約1コマ）。	上と同じ条件で連続撮影となる。ピント合わせは連続撮影中も作動する（1秒間に約1コマ）。

主なアクセサリー (別売となります)



グリップ GR-80TP

ハンドストラップ付きのグリップGR-80TPは、カメラのグリップを大型化してホールド性を高めます。また簡易三脚を内蔵しているのでセルフタイマー撮影やローアングル撮影のときに利用することができます。



リモートスイッチ RS-60E3

リモートスイッチRS-60E3は、マクロ撮影や長時間露光（バルブ撮影）のときに三脚と併用してカメラぶれを防ぐ専用のケーブルリリースです。カメラのリモコンジャックに接続して使います。



EOS専用EXシリーズストロボ

専用スピードライトとしてアクセサリースューに取り付けて使用するクリップオンタイプの大光量ズームストロボ380EX（最大ガイドナンバー38/ISO 100・m）、コンパクトストロボ220EX（最大ガイドナンバー22/ISO 100・m）などがあります。



アイピースエクステンダー EP-EX15

アイピースエクステンダーEP-EX15は、EOSのファインダーを15mm延長します。エクステンダーを取り付けると、ファインダーの倍率は約0.5倍になります。



バッテリーパックBP-8

カメラにセットしてあるリチウム電池の代わりに、世界のどこでも入手が容易な「単3形乾電池」を使用する外部電源パックです。



カメラケース EH8-L (LL)

カメラを保護するためのケースとして、レンズを付けたまま収納することができます。専用ケースがあります。

(L) EF35-80mm F4-5.6 USM
EF35-105mm F4.5-5.6 USM

(LL) EF28-80mm F3.5-5.6 IV USM
EF80-200mm F4-5.6 USM



視度補正レンズE

視度補正レンズEを取り付ければ、近視、遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度はマイナス1ジオプターですが、交換用視度補正レンズとして10種類が用意されています。実際にカメラに取り付けてファインダーをのぞいて確かめてから選んでください。

- 視度補正レンズに表示されている数値はカメラに装着したときの視度を表しています。視度補正レンズ単体の視度数値ではありません。



このカメラにはキャノンのEOS専用外付けストロボを使用されることをおすすめします。特に他社の特定のカメラ専用とされているストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持つ）、高圧タイプのストロボおよびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- (1) このカメラは防水構造になっていませんので、雨天下や水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよく拭きとってください。
- (2) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますのでこのような中にカメラを放置しないでください。
- (3) レンズやフィルム室内にゴミがついているときは、市販のブロアーブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- (4) カメラを長期間使用しないときは電池室から電池を抜き取り、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- (5) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。
- (6) 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

表示パネルについて

カメラの表示パネルは液晶を使用しています。表示が薄くなった場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください（有料）。なお、液晶の特性上、低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

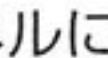
リチウム電池について

カメラは、リチウム電池CR123A 2本、あるいはDL123A 2本を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池の容量を確認してください。

- (1) 電池を交換したとき
- (2) 長期間カメラを使用しなかったとき
- (3) シャッターが切れなくなったとき
- (4) 寒冷地で撮影するとき
- (5) その他、大切な写真を撮るとき

- 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入ると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- この電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

電圧の低下とカメラの作動について

表示パネルに  が点滅しても、シャッターが切れれば写真は適正露出になります。ただし、電池の容量が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。新品の電池に交換してください。

電子接点について

レンズを外したときは、電子接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置いてください。

主な性能の一覧

型式	ワインダー・ストロボ・オートデート内蔵35mmフォーカルプレーンシャッターAF/AE一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36mm、パノラマ撮影時13.3mm×36mm
使用レンズ	EFレンズ群
レンズマウント	キヤノンEFマウント（完全電子制御方式）
視野率	上下左右とも90%
倍率	0.7倍（50mmレンズ・無限遠）
標準視度	-1ジオプター（アイポイント18.5mm）
フォーカシングスクリーン	固定式、AFフレーム・部分測光範囲マーク、パノラマフレーム付き全面ニューレーザーマットスクリーン
パノラマ状態表示	パノラマ選択時、接眼枠左下部にLED（橙色）点灯
撮影モード	① プログラムAE（シフト可） ② シャッター優先AE ③ 絞り優先AE ④ 自動深度優先AE ⑤ 全自動（シフト不可） ⑥ イメージセレクト機能（5種内蔵） ⑦ ストロボAE： 220EX、380EXとの組み合わせ／E-TTLプログラムストロボAE 内蔵ストロボ／TTLプログラムストロボAE 220EX、380EX以外のEOS用スピードライトとの組み合わせ／ A-TTL、TTLプログラムストロボAE ⑧ マニュアル
手ぶれ警告	全自動時および夜景モードを除くイメージゾーン時に作動。自動的にセットされたシャッター速度が使用レンズの1／焦点距離マイナス0～0.5段以下となった場合にシャッター速度の点滅で警告
測光範囲	EV2～20（常温常湿、50mm F1.4使用、ISO100）
使用フィルム感度	ISO6～6400、DXコード自動対応（ISO25～5000）
露出補正	マニュアルセット1/2段ずつ±2段（イメージゾーンでは使用不可）
オートブラケティング	1/2段ずつ±2段。適正、露出アンダー、および露出オーバーの順で連写および単写
多重露出	9回まで予約可能

AF制御方式	マルチBASISによるTTL-CT-SIR方式 ① ワンショットオートフォーカス／測距完了にて停止、測距完了後にリリース可能 ② AIフォーカス／ワンショットオートフォーカス・AIサーボを自動切り替え ③ マニュアル／フォーカスモードスイッチをMにし、手動フォーカスリングを回すことにより可能
AF測距輝度範囲	EV1.5～18 (ISO100・基準チャート)
AFフレーム切り替え	① 自動選択AF：カメラによる自動選択 ② 手動選択AF：3つのAFフレームから任意の一つを選択
AF補助光	内蔵AF補助光を自動的に投光
シャッター	縦走りフォーカルプレーン式全速電子制御シャッター
シャッター速度	1/2000～30秒およびバルブ（1/2段ずつのセット可能） X接点は1/90秒
セルフタイマー	電子制御式（時限約10秒）
フィルム装てん	自動、フィルムセット後背ぶたを閉じると、全部巻き取るプリワインド方式
フィルム巻き上げ	自動巻き上げ ① 一枚撮り ② 連続撮影（秒間最高約1コマ）
巻き戻し	自動巻き戻し、途中巻き戻し可
内蔵ストロボ	ペンタ部内蔵リトラクタブル式TTL自動調光ストロボ、直列制御式 ① ガイドナンバー／12 (ISO100・m) ② 充電時間／約2秒 ③ 照射角／焦点距離28mmをカバー
フラッシュ接点	X接点／アクセサリースキュー部に直結接点あり
電源	リチウム電池CR123A（または、DL123A）、2本
電池容量確認	モードダイヤルの機能セットゾーン以外のポジションで可
大きさ	145.7 (W) × 92 (H) × 61.9 (D) mm
質量	370g（ボディのみ）リチウム電池CR123A（または、DL123A）、2本を除く

レンズ		EF28 - 80mm F3.5 - 5.6 IV USM	EF80 - 200mm F4.5 - 5.6 USM	EF75 - 300mm F4 - 5.6 II USM
画角	対角線	75°～30°	30°～12°	32° 11'～8° 15'
	垂直	46°～17°	17°～7°	18° 11'～4° 35'
	水平	65°～25°	25°～10°	27°～6° 50'
レンズ構成枚数		10群10枚	7群10枚	9群13枚
最小絞り		F/22～32	F/22～27	F/32～45
撮影距離範囲		0.38m ～ ∞	1.5m ～ ∞	1.5m ～ ∞
最大撮影倍率と画界		28mm	80mm	75mm
		0.10 (255×393mm)	0.06 (366×546mm)	0.06 (372×558mm)
		80mm	200mm	300mm
		0.26 (91×135mm)	0.16 (153×226mm)	0.25 (95×142mm)
フィルター径と使用可能枚数		58mm 1枚	52mm 1枚	58mm 1枚
長さ×最大径		71.2×66.4mm	78.5×69mm	71×122.1mm
質 量		200g	260g	495g

- 都合により製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。（データはすべて当社試験条件によります）

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。